

## No. 17 >>> Contents

### ●提携支援センターから

- 9 提携グループを追加承認 ..... ①
- 三つのマークと三つのグループ  
..... 日本蚕糸絹業開発協同組合 事務局 土井 芳文 ..... ③
- 天蚕及び天蚕ハイブリッド生糸の商品化への道のり  
..... りょうぜん天蚕の会 会長 柳 沼 泰 衛 ..... ⑦
- 「秩父シルクの会を立ち上げて」 .. 秩父シルクの会 代表 松本 信 孝 ..... ⑬
- 平成 22 年度第 6 次純国産絹マーク使用許諾状況 ・ 社団法人 日本絹業協会 ..... ⑰
- 提携支援センター活動日誌 No. 17 ..... ⑳

### ●今月の話題

- 絹の箏弦復活の兆し  
..... 聖徳大学 教授 徳丸 吉 彦 ..... ㉑

### ●国内情報

- シルク業界と産業遺産の保存・活用  
..... 東京産業考古学会 副会長 平井 東 幸 ..... ㉕

### ●海外情報

- 最近の韓国養蚕業の動向  
..... 韓国生糸輸出入組合 元副理事長 李 英 烈 ..... ㉙

### ●トピックス

- 国内産地情報、海外情報（中国） ..... ㉚

### ●横浜開港とシルク貿易

- 度重なる明治期の蚕糸不況 ..... シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ..... ㉝

### ●イベント情報

- ..... ㉞

### ●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

- ..... ㉟

### ●蚕糸関係博物館一覧

- ..... ㊱

### ●蚕糸関係団体ホームページ一覧

- ..... ㊲

### ●統計資料

- ..... ㊳

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)



## 9 提携グループを追加承認

### 平成 23 年度からスタートの提携グループ

事業推進委員会（外部委員による提携グループの審査委員会）は、平成 23 年 1 月 13 日及び 2 月 8 日に東京都有楽町蚕糸会館会議室で開催し、平成 23 年産繭から対象とする申請された 9 提携グループ（1 月 13 日に 5 提携グループ、2 月 8 日に 4 提携グループ）について、審議が行われました。結果、9 提携グループすべて事業承認されました。本事業推進委員会は、今年度 5 回目が終わり、計 29 グループが新たに 23 年産繭から提携システムに移行することとなります。9 グループの特徴は別記表のとおりです。

#### 今後の予定

今後につきましては、平成 23 年 3 月 3 日、3 月 29 日の 2 回、提携グループの審査を行う事業推進委員会を開催いたします。

#### 別記 新たに承認された提携システム確立グループ一覧

No.	提携グループ名	構成者（団体等）	対象繭生産地 （平成 23 年産 対象繭数量）	商品の特徴等 （商品、産地、蚕品種 etc）
1	純日本の絹文化協会 「松岡姫」グループ （代表企業：(株)伊と幸）	養蚕農家（21 戸）、みちのく安達農協、松岡(株)、羽賀恒明、白数織物(有)、河芳織物(有)、(株)伊と幸	福島県 （10,000 kg） 春 3,000kg 初秋 3,200kg 晩秋 3,800kg	これまで取り組んできた、特徴ある蚕品種「松岡姫」を使用した高級白生地シルクブランドの存続を図るとともに、更なる事業規模の拡大を目指す。
2	日本絹文化振興会 （代表企業：(株)丸上）	養蚕農家（6 戸）、土浦農協、碓氷製糸農協、(株)丸上、(有)幸和、関係者 34 社	茨城県 （1,953kg） 春 869kg 初秋 529kg 晩秋 555kg	養蚕農家から小売店までが連携し、小売店ごとに、独自性のある色無地、付下げ、染帯等のものづくり活動を展開する。特に素材の特徴と個々の小売店のオリジナル性を高め、最高級の純国産絹製品を製作する。
3	日本の絹を守る会 （代表企業：(株)西陣まいづる）	養蚕農家（5 戸）、碓氷安中農協、碓氷製糸農協、丸八生糸(株)、(株)西陣まいづる	群馬県 （2,500 kg） 春 2,500 kg	選繭を徹底した春繭を低速で繰糸した高品質な生糸を使用して、織り込密度の高い（通常の 33.3%増）光沢のあるしなやかな袋帯を製作する。
4	甲斐絹グループ （代表企業：(株)甲斐絹座）	養蚕農家（15 戸）、笛吹農協、梨北農協、クレーン農協、巨摩野農協、松沢製糸、(有)石森染色、丸八生糸(株)、(株)甲斐絹座	山梨県 （3,886 kg） 春 1,770kg 初秋 770kg 晩秋 1,346kg	先染め高級絹織物である「甲斐絹」を、富士北麓地方の地域資源として再認識し、ネクタイ、ストール、バック等を現在の消費者に受け入れられる商品として開発し、販売していく。
5	秩父シルクの会 （代表企業：(有)ハック）	養蚕農家（4 戸）、秩父農協、埼玉製糸協会、(有)ハック、(株)倉敷・マミー	埼玉県 （300kg） 春 300kg	特徴ある蚕品種「いろどり」と野蚕糸との複合糸を用いた業界初の「着物専用ニットインナー（従来に肌襦袢と異なり、体に優しくフィットし、薄くて暖かく、保湿性・速乾性や消臭性もある。）」を開発・販売する。
小計	対象合計繭量		18,639Kg	

No.	提携グループ名	構成者（団体等）	対象繭生産地 （平成23年産 対象繭数量）	商品の特徴等 （商品、産地、蚕品種 etc）
6	蚕彩会 （代表企業：装いの道㈱）	養蚕農家（4戸）、ち ちぶ農協、埼玉県製糸 協会、松岡㈱、(有)酒井、 ㈱二葉、装いの道㈱	埼玉県（500kg） 春 500kg	特徴ある蚕品種（いろいろ）を埼玉県秩父市 の養蚕農家で飼育し、松岡㈱で低速で繰糸、 かさ高性のある生糸を生産する。この生糸で 振袖及び訪問着を製作し装道グループで販売 する。
7	越後絹の会 （代表企業：㈱猪井）	養蚕農家（1戸）、茨 城千代田農協、碓氷製 糸農協、(有)幸和、㈱猪 井	茨城県（360kg） 春 180kg 初秋 90kg 晩秋 90kg	茨城県の繭を使用し、碓氷製糸で生糸に、丹 後で製織した白生地を、個々の販売店のオリ ジナル性を考慮して、色無地、付下、染帯等 の最高級純国産絹織物を製作。
8	きわみ絹の会 （代表企業：第一衣料㈱）	養蚕農家（2戸）、ひ たち野農協、碓氷製糸 農協、(有)幸和、㈱中田 勝、第一衣料㈱	茨城県（480kg） 春 240kg 晩秋 240kg	茨城県の繭を使用し、碓氷製糸で生糸に、丹 後で製織し、素材の特徴と個々の販売店を考 慮し、色無地、付下、染帯等の最高級純国産 絹織物を製作。
9	愛媛県蚕種の会 （代表企業：愛媛蚕種㈱）	養蚕農家（2戸）、愛 媛たいき農協、愛媛蚕 種㈱	愛媛県（300kg） 春 180kg 晩秋 120kg	原種の繭生産する農家と提携して優良な蚕種 を製造する。蚕種は、春嶺×鐘月、錦秋×鐘 和をはじめ、あけぼの、青熟等特殊な品種を 含めて春900箱、晩秋600箱を製造。
小 計	対象合計繭量		1,640kg	

※No. 1～5は、平成23年1月13日審査・承認グループ、No. 6～9は、平成23年2月8日審査・承認グループである。



「(株)伊と幸が製作・販売する純国産きもの(中央が松岡姫)(ジャパンシルクセンターにて展示)」

## 三つのマークと三つのグループ

日本蚕糸絹業開発協同組合

事務局 土井芳文

当組合で中心的役割を果たす絹小沢株式会社が、純国産の生糸を使用した商品づくりを始めたのが平成8年のこと、その後数々の純国産絹製品をリリース。

そして平成17年に当組合を設立した経緯は本誌の平成21年（2009）3月号で記述いたしましたが、現在これらの純国産絹製品には最大三つのマークが添付されています。

### 三つのマーク



「ぐんまシルク」

群馬県では、「ぐんまシルク」のブランド化を促進するため、群馬県ブランド奨励蚕品種（群馬オリジナル蚕品種）の繭を原料とした生糸に対しては平成7年から、絹製品に対しては平成10年3月から認定制度が実施されています。9月と2月の年2回開催される「ぐんまシルク」認定委員会において審査・承認された生糸と絹製品には、繭の形をした「認証シール」

が交付されます。

現在、この群馬オリジナル蚕品種には「世紀二一」「新小石丸」「ぐんま200」「ぐんま黄金」「上州絹星」「新青白」「蚕太」の7品種がありますが、当組合では「新青白」「蚕太」を除く5品種の繭を原料とした生糸を使用して商品化、認定された16アイテムの製品については、交付された「ぐんまシルク」の「認証シール」が添付されています。



「純日本の絹」

上記の7つの群馬オリジナル蚕品種以外の普通品種（一般品種）の繭を原料とした純国産絹製品には認定制度がなかったため、絹小沢株式会社では平成17年6月独自の「純日本の絹」マークを作成、同年12月には商標登録し全ての純国産絹製品24アイテムに添付しています。



「純国産絹マーク」

前述の「純日本の絹」マーク作成から遅れること3年、社団法人日本絹業協会が、国産の繭から繰糸した生糸等を用いて、国内で製織、染織、加工及び縫製された純国産絹製品であることを一般の消費者が容易に識別できるようにするため、平成20年3月「純国産絹マーク」が制定されました。これを受けて当組合も、全ての純国産絹製品を対象に使用許諾を受け、交付されたシール、タグをこれらの製品に添付しています。

このような経緯で、現在当組合が企画・制作する純国産絹製品のうち、群馬オリジナル蚕品種の繭を原料とした絹製品には、群馬県の「ぐんまシルク」、社団法人日本絹業協会の「純国産絹マーク」、そして絹小沢株式会社の「純日本の絹」の3種類のシールが、普通品種の繭を原料としたものには、「ぐんまシルク」を除く2種類のシールが添付されている次第です。

---

---

なお、直近に「純国産絹マーク」の使用許諾の認定を受けた新開発製品は、次の2点です。



—世界絹遺産— ふくさ

2010 (H.22) / 12 ~

表地は2008 / 6から発売の—世界絹遺産—紋意匠ちりめん白生地（よこ糸 上州絹星、たて糸ぐんま200）を紫色に染めたもの。

裏地は群馬県産の生糸使用の羽二重絹。芯地には桑の条を原料とした和紙を使用した高級ふくさです。



おくるみ

2011 (H.23) / 2 ~

群馬県産生糸を使用して製織した羽二重絹の側に、軽く暖かい福島県産の真綿を詰めた「おくるみ」。

肌がやわらかな大切な赤ちゃんを、純国産のシルクで大事に包む、保温効果の高い「おくるみ」です。

このようにさまざまな純国産絹製品を開発してきた当組合は、今後も新規絹製品の開発に挑戦してまいります。

### 三つのグループ

当組合は、現在三つの兄弟提携グループを抱えています。長男は、20年度からスタートした「日本蚕糸絹業開発協同組国産シルク研究会」、次男は、21年度からの「同国産シルク研究会普通蚕種部会」、そして三男は、この春23年度からスタート予定の「同国産シルク研究会熊本部会」です。

---

---

## 卒業

当組合が最初に立ち上げた蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係わる提携グループ、群馬オリジナル蚕品種の繭を原料とした絹製品を対象とした「日本蚕糸絹業開発協同組合同産シルク研究会」が、この3月で、3年間の勉強期間を終えて卒業しなければなりません。本誌昨年3月号で高木提携支援センター長が、「対策事業には留年はない。何が何でも、必要な単位をとって卒業しなければならない。」と書いていましたが、いよいよ、その時が来てしまいました。

これを機に、これまでの実績をもとに当グループの川上から川下までの連携システムを改めてより強固で確実なものにするとともに、上記三つのマークを有力な武器として、自立の道を歩むことにしております。

## 進級

上記の群馬のオリジナル蚕品種以外の普通品種（一般品種）の生糸を使用しての商品を対象とした「日本蚕糸絹業開発協同組合同産シルク研究会普通蚕種部会」を立ち上げたのは、上記に遅れること1年。リーマンショック後の発足ということで、その反省を踏まえまずまずの成績を収めて、この春4月最終学年へ進級いたします。

## 入学

一番末の弟がこの春から最後の提携グループの一つとして入学予定です。

九州地区で養蚕が残っている熊本県産の繭を原料として、純国産絹製品を生産し、それを地元の鶴屋百貨店が全て販売するという提携グループ「日本蚕糸絹業開発協同組合同産シルク研究会熊本部会」です。当初21年度よりスタートすべく準備を進めていましたが、地元の体制が整わなかったため、最終年度スタート予定の地産地消型の提携グループです。

## おわりに

提携グループ化が終了するこの春からは、当組合などの創る提携グループが取り扱う国産生糸以外は、原則として流通しないことになり、それだけに貴重な国産生糸数量は確定され、その稀少価値が再認識される一大チャンスです。三つの兄弟提携グループとしても、消費者の求めている純国産絹製品を安定的に継続して提供するべく努力してまいります。今後とも関係諸機関の適切な対応と、ご指導をお願い申し上げる次第です。

---

どい よしふみ

日本蚕糸絹業開発協同組合 事務局

## 天蚕及び天蚕ハイブリッド生糸の商品化への道のり

りょうぜん天蚕の会

会長 柳 沼 泰 衛

### はじめに

日本古来の原産種である天蚕（ヤママユ）は野蚕の一種で、鱗翅目ヤママユ科に属する大型の野生絹糸虫ですが、そのもえぎ色の繭と野生糸は独特の輝きと自然の風合いが魅力を発し、希少性とともにも本物志向の中で見直されています。

しかし、年1回発生でもあり、近年は山林の雑木林（クヌギ、コナラ等）が荒廃し絶滅が危惧されています。

伊達市霊山町は、かつて明治初期にかけたおりかえしきいと掛田折返生糸の最大産地として生糸を輸出し全国に名を馳せておりました。

そこでシルク王国の復活を、天蚕を旗印として夢を託してまた一方で天蚕を地域資源として守ろうと異業種交流の40名の有志が集い、平成17年2月に「りょうぜん天蚕の会」を立ち上げました。

その後、平成19年8月霊山こどもの村において初めての全国天蚕セミナーを開催し、全国各地から120余名の天蚕愛好者が集まり、成果発表と交流会が行われ多様な製品展示等があって有意義でありまし



〈写真〉初めての全国天蚕セミナーを開催

た。当会としてもハイブリッド製品の試作品を全国発信するよい機会となりました。

### 1 天蚕繭の安定生産への取り組み

天蚕の育成には幼虫を鳥類などの天敵から防ぐことが重要で、このためハウスネット飼育を基本としました。

一般的に天蚕の飼料は、クヌギ、ナラ等が主とされていますが私たちは、ハウス飼育に適したエゾノキヌヤナギを用い、さし木による速成園を作りました。この速成造成飼育ハウスは、事業開始当初15棟で、

繭の生産量は 3,000 粒程度でしたが、平成 22 年現在ではハウス数は 25 棟に増え、繭も約 7,000 粒確保できました。

ただ、平成 22 年は夏期の異常高温が続いたり、年 3 回育を目標に飼育を行ったこともあり、夏秋期には、カメムシ、カマキリ、ヤブキリ等捕食性昆虫の天敵被害が増大し、その駆除に苦慮しました。また、カミキリムシ類、クワゴマダラヒトリなどの害虫が多発生し飼養樹を衰弱させたり、葉を食害して天蚕飼育に悪影響を与えました。

ちなみに、時期別収繭量は 1 回目の春が 5,150 粒、2 回目の夏が 1,430 粒、3 回目の初秋は 520 粒で、7 月から 8 月上旬に山付け（飼養樹に天産卵を取り付ける作業）した夏秋期の収繭量が少なかったことが印象的でした。

つまり、より安定生産のためには、干ばつに弱いエゾノキヌヤナギ単用ではなく他の樹種との混植や天敵防除の徹底、伝染性病害の防除、稚蚕専用用途別ハウスの再構築などの改善が必要と思われます。



〈写真〉天蚕の幼虫

## 2 地域特産品作りに挑戦

私たちは当初、天蚕繭の自然の風合いを生かした地域ならではの製品づくりの方向を、繭色の色彩を基調とした繭工芸品の作成と絹糸を紡ぎ機織りして織布を多様な加工商品とするという二つの分野から新商品開発を始めました。

会員には、その道の技術を持っている人がいることも幸いし独自の力で試行錯誤しながら皆で提案し、商品作りを行ってきました。

### ・<sup>もえぎ</sup>萌葱色の繭を利用したアクセサリーの商品化

繭層を剥離し、毛羽立ち防止のコーティングを施して独特の色合いを封じ込めたアクセサリーとして、ネックレス、ブローチ、根付け、タイピン、ピアース等を製品化し、頒価 1,500 円～ 4,000 円で地元でも売れ



〈写真〉天蚕生糸と繭



〈写真〉機織りの様子

る商品が出来てきました。

また、この繭玉工芸品づくりは天蚕繭と家蚕繭のコラボレーションを考えたブローチなどの講習会を、小学校、地域老人クラブ等との交流活動の場として進めています。

#### ・天蚕紬糸及びハイブリッド天蚕糸による織布製作

平成 18 年には、輝きと野性味のある天蚕糸と家蚕糸（生糸）を混合繰糸して、新しい糸質・機能を持つ天蚕ハイブリッド生糸の創製に取り組みました。これは、福島県農業総合センター開発のハイブリッド工法、つまり、天蚕繭 3 に対し家蚕繭 10 の割合（織度は 50：50 の比率）で繰り上げたものを、天蚕ハイブリッド生糸と呼称したものです。この絹糸は、天蚕糸の織度が太く・強伸性が大きく・多孔性であるため、かさ高性と軽さ、輝きを持つと同時に、家

蚕糸のしなやかさを融合させたものでしわになりにくい特性があります。

現在までの所では、天蚕ハイブリッド生糸を 3 本撚糸（150 デニール）して主に経糸として用いることとしました。緯糸には当会が工夫改善した一粒つむぎ法による天蚕紬糸を用い、天蚕ハイブリッドショール等を創製しました。このほか、これらの織布を用いてハンドバック、懐紙入れ、名刺入れ、小物入れなども商品化にこぎ着けました。

この天蚕ハイブリッドショールは、平成 21 年度福島県特産品コンクールに出展し生活・工芸品部門で奨励賞に入賞しており、審査委員から特徴のある地域資源としてよい素材であるとの評価が得られました。

これらの商品化に当たっては、地域活性化サポート支援事業として福島県県北地方振興局・伊達市等の補助や、農業総合センター・福島ハイテクプラザ技術支援センタ



〈写真〉天蚕布のハンドバック



〈写真〉天蚕ハイブリッド糸によるショール

一等の多大なご支援を頂きました。

なお、この天蚕ハイブリッドショールの製作については、紬糸の使用料が価格に反映し量が増えることで高額化するのので、消費者の方々に購入しやすいハーフサイズのものを試作中で、天蚕の風合いと輝きを持たせながら、天蚕ハイブリッド糸の使用量を増やして、お求めやすい（3万円前後）商品化にも取り組んでいます。

### 3 今後の天蚕ハイブリッド生糸商品の新開発の方向と販売戦略

#### ・純国産絹マーク使用の許諾と品位向上対策

前述の県特産品コンクール入賞の製品等について、社団法人日本絹業協会より平成22年4月13日付でこのマーク使用が許可されました。平成22年12月下旬、純国産絹展示会等を東京にある福島県八重洲観光交流館において2日間にわたり、PRと

都市圏でのニーズ動向を調査しました。

その結果、大半の人たちは天蚕商品を見たことがないので、初めて触れ説明を受けてその色合いや自然の輝きにびっくりしている例が多く、まだまだPR不足の実感でした。しかし、素材として、守るべき地域文化財の価値があるとの評価もあり、ちょうどクリスマスプレゼントとしてもえぎ色の鮮やかなネックレス等が売れ筋でした。今後は、デザイン性の課題や高級感をアピールするような工夫が必要と考えています。特にお茶会等のグループからの要望を組み入れた商品開発が重要と思われました。また、販売価格については、適正との回答が多くあったと同時に分からないという答えもあり、天蚕飼育から商品化までの一貫した経過を分かりやすく説明すること、絹製品取扱いに関する留意点を記して欲しいなどの課題もありました。

---

---

## ・提携事業に取り組み活路を

私たちの天蚕の会を核とした「天蚕と家蚕を原料とした純国産絹製品の生産・販売グループ」は、この度、蚕糸・絹業提携事業として認定され、本年度から各種活動に本格的に取り組みます。(別記体系図参照)関係者との交流を一層活発化し、グループの連携を強化するとともに、各種天蚕製品の良さを広く消費者にアピールして上述の課題を克服すべく活路を見出したいと考えております。

## おわりに

天蚕の飼育体験・繭工芸品づくり等、地域内の子ども達との交流を続けていますが、何より会自体での後継者対策の緊急対応が大きな課題となっております。

平成21年6月下旬「緑のダイヤ天蚕で地域を元気に」と題しNHKお昼の生放送“ふるさと一番”がテレビ放映されました。り

ょうぜん天蚕の会の活動が全国に紹介された緊張の23分間でしたが、その直後に各地からの問い合わせがあり、仕事の手がつかないほどの反響の強さを経験しました。中でも、金婚式に天蚕ハイブリッド織布でブラウスを贈りたいのでぜひ織布を分けて欲しいという要請もあり、会員は製品作りに力が入り、地域資源を生かした地域活性化を活動の原点として再考させられました。

また、今年1月14日の皇室歌会始の儀に、秋篠宮妃紀子様「天蚕（やままゆ）は までばしひの葉につつまれて うすき緑の 繭をつむげり」と詠まれています。

私たちりょうぜん天蚕の会としては、日本古来の野蚕の文化を守るべく、今後の天蚕飼育ならびに純国産絹製品の創製活動にも会員一同頑張るつもりです。

皆様のご意見を頂戴できれば幸いです。

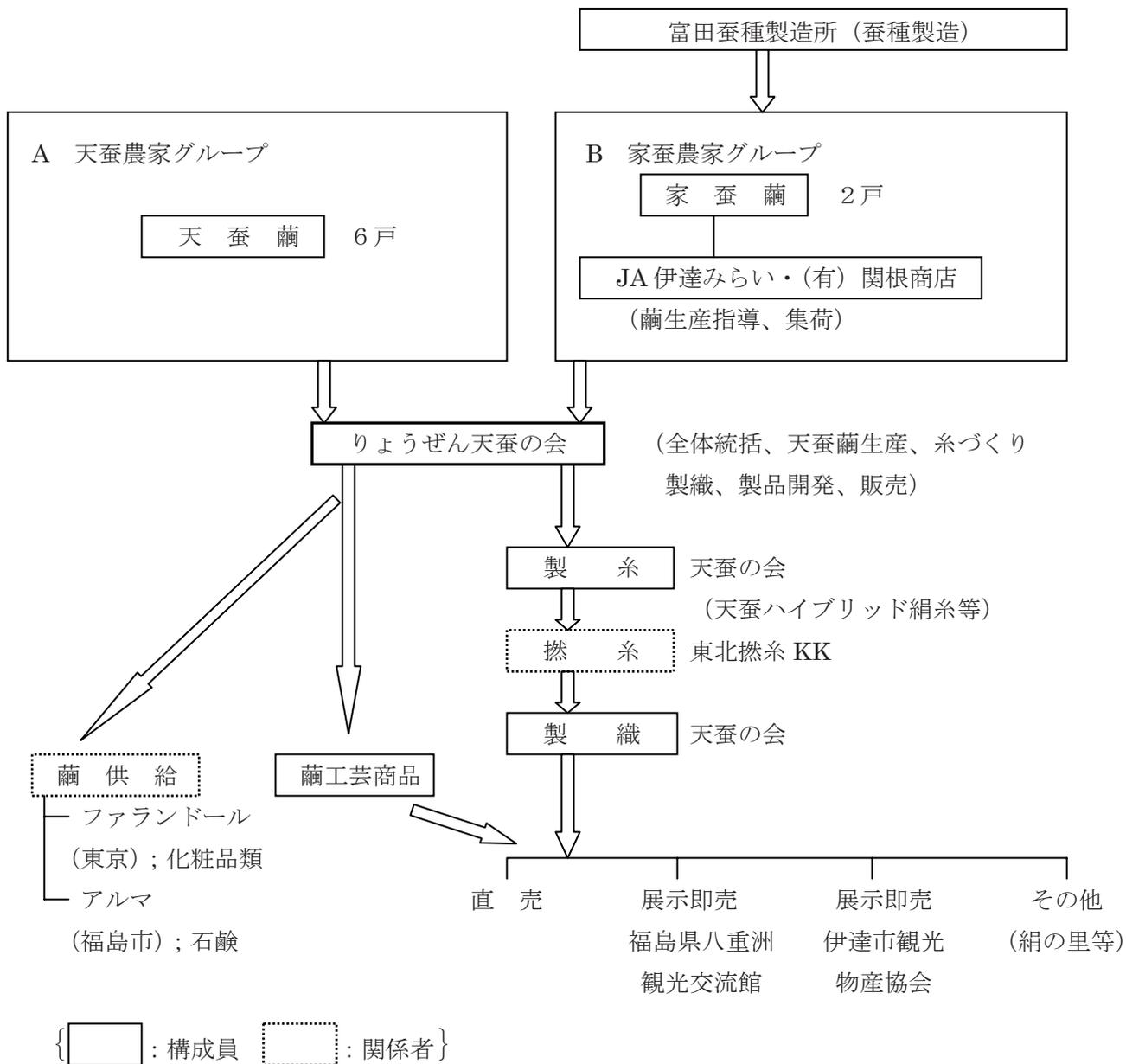
---

やぎぬま やすえい

りょうぜん天蚕の会 会長

別記

伊達天蚕推進研究会提携システム全体の体系図



## 「秩父シルクの会を立ち上げて」

### 秩父シルクの会

代表 松本 信孝

#### はじめに

私は元合繊メーカーに勤務していましたが、退職後に化合繊の目標であった「絹」の世界をもっと知りたいと思い、「蚕糸科学研究所」に勉強に通いました。

当時の勝野所長を始め諸先生方から、養蚕や絹のことを基礎からいろいろと教えて頂き、非常に感謝しています。

先ず、感じたのは、合繊は石油を原料にした高分子化学で、理論を実験室やプラントで実践化しやすいのに対し、絹は昆虫からなる農業、即ち自然相手の仕事で、時間軸が全然違い即効性に差があるということです。そして絹を知るにつれ、絹の奥行きの高さに魅せられました。

日本のシルクは2000年余の歴史を持ち、ほぼ完成されたものと思っていたのですが、私はシルクを勉強する内、我々が知っているシルク又は利用しているシルクはほんの一部で、未開拓の領域が未だ多いのではないかと感じました。

いろいろありますが、端的に感じたことを言いますと

1. 従来のシルクは、フィブロイン蛋白質の利用が主体で、もう一つの蛋白質セリシンは最近利用が進んでいるものの、未だ十分ではないこと。
2. 家蚕中心に展開されてきて、国産野蚕の研究や商品開発は後回しになり遅れている状況下にあること。（市場に野蚕の商品は少ない。）
3. パウダー化やフィルム化が無く、大半が「糸」での利用が中心だったこと。  
近年、平林潔博士（東京農工大学名誉教授、元信州大学教授）が中心になって開発したことによりシルクパウダーは、現在、その応用や利用が進んでいます。
4. シルクは繊維の女王（光沢や色の深み、手触りの感覚等からくる高級感）として、世界中のファッション界から憧れの対象になってきた。その印象があまりにも強すぎるためか、健康や医療の視点からシルクのもつ優れた機能が見過ごされてきたこと。
5. バイオ視点からの研究：優れた各種アミノ酸を含む蛋白質として、絹の他に、

---

---

餌としての桑やお蚕さんそのもの蛹（漢方薬の原料）の研究も併せて、実用的にも進められるべきではないか。

このような視点から、私は秩父のササ繭（ブランド名：いろどり）に注目していました。以前にも、ササ繭の商品化を試みたのですが、中途半端だったせいか挫折した経緯があります。

その後、ササ繭を研究するにつれ、私の念願の想い「着るものの本質」を実現する素材としてピッタリの感を強くしており、再度挑戦したいと思っていました。

### 提携システムにチャレンジ

今回の「提携システム」構築を機に、埼玉県製糸協会の小林会長や秩父の瀬能紀夫様始め養蚕農家等の各関係者と話し合う内、その想いが一層強くなりました。更に、高い技術をもつ製糸工場（松岡（株））や撚糸工場（丹後）、染工場（京都）、奈良のニッターや縫製工場の協力を得ることによ



〈写真〉秩父の桑園風景

り、「何か新しいシルク」を表現できそうな確信がもてました。

この確信の根拠は、次のとおりです。

### ● 秩父のササ繭は生産者の顔が見え、消費者が安心出来る絹製品です！！

今まで、消費者は繭の産地、農家、品種も知らず、織物生産の事情もわからず、不安な状態で高価な絹製品を購入してきました。即ち、他の商品同様、生産・流通体制の分断の中、養蚕農家と消費者の繋がりは少なかったのでしょうか。

最近の一部の農産物のように、私はシルク製品も「トレサビリティ＝可視化」で、消費者の信頼と安心を取り戻すビジネスに変えていかなければならないと考えていました。それは生産・流通に関わる全ての人々が、伝統産業の良さを残しながらも、消費者との対話で本当の満足、喜び、感動を提供していくことに繋がるからです。国産繭・生糸の希少性や特徴を生かした高品質な国産絹製品づくりを推進して、「自然と人間の共生を根底とする日本の絹文化」を秩父（山間地農業）から再度、世界に発信していくことが可能な時代になったのです。「健康で美しく、心豊かに、生き甲斐を持って、幸せな人生」を実現するために！！

### ● 衣服革命：「衣」は 第2の皮膚であるという新しいコンセプトへ

着る衣服（繊維産業）から「ヘルスケア産業」に発想の転換を図ることが重要。

（繊維は斜陽産業だが、視点を変えると先

端のバイオやヘルスケア産業になりうる。)

(1) 従来のコンセプト

- ・ 基本的機能、暑さや寒さをしのぐための衣服。
- ・ ファッション性、自分を美しく見せるための衣服。

(2) 新しいコンセプト

- ・ 皮膚環境を健康・快適に維持する第2の皮膚です。皮膚は、日常の温度や湿度の変化に絶えず反応し（皮膚呼吸は熱、汗、臭い、老廃物の処理）新陳代謝を図っています。それを適切にサポートする衣服が重要なのです。
- ・ アンチエイジングウエア、お肌の敵：紫外線、活性酸素、冷え、乾燥からお肌を守り、老化の象徴シミ、シワ、クスマ、ソバカス等を最小限に抑える。
- ・ 心身を癒すウエア、体に安心・安全で、お肌に優しく親和性もあり肌ストレスを和らげるのが癒しの衣服。更に、皮膚の病や炎症から守ってくれる機能（抗細菌、抗ウイルス性）も大切。

このような背景・根拠をもとに、関係者一同と相談の上、「秩父シルクの会」を立ち上げた次第です。

対象としたシルク商品は、お肌が喜ぶ！着て気持ち良い「夢の下着」です。

上記の「新しいコンセプト」を可能とするため、業界初の「ササ繭シルクインナー」を開発しました。

元々、シルクは高濃度の蛋白質で皮膚に一番馴染みやすくインナーに最適の繊維で



〈写真〉7分袖インナー商品

す。加齢臭や悪臭、カユミ、カサカサ、敏感肌（アトピー）、冷え、肌荒れ、紫外線、活性酸素等皮膚の悩みを解消するヘルスケアの「ササ繭シルクインナー」を企画しました。

これの特徴は、凹凸があり、薄く温かい空気層の多い立体編としたため締め付けがなく着易くて、大変楽です。（ストレッチ性は通常の編地の2～3倍位の伸縮があります）

次いで、下着は通常1～2日位の頻度で洗濯しますが、1週間程度の連続着用が可能なエコインナーとしました。それは、秩父のササ繭と野蚕シルクを組み合わせ、更にバイオ加工を施した結果、洗濯頻度が少なく、水、エネルギー、洗剤の節約ができ、



〈写真〉天蚕のようにきれいな緑色をしたササ繭  
(右側)

環境に優しいインナーと言えます。

用途としては、「着物専用のインナー」としました。ターゲットとしては、先ずシルクを良く知っておりシルクファンの多い着物の世界に焦点を当てました。全く新しいコンセプトの快適インナーをシルクの愛好者に味わい評価してもらいたいと思っています。

同時に、あらためて以下に述べる「ササ繭」の特性を消費者にPRします。

- ・抗酸化性 活性酸素の抑制効果が高い
- ・高吸湿性能 保湿性能が高い。
- ・紫外線カット性能、通常の白繭より高い。
- ・こしや弾力性があり、摩擦強度も強い。

## おわりに

現代の消費者は単なるモノではなく、知



〈写真〉ササ繭をつくる秩父の養蚕

識、感動、健康、癒し、安心などの価値を求めています。これらの新たな価値を創造するために、効率化や量産化といった産業化時代のノウハウはあまり役立ちません。それよりも、知恵、経験、技術に優れた人材を生かすことにあります。それには提携が重要な要素です。しかし、経験豊富で優秀な人材が高齢化し、残された時間は少なくなっています。「物質文明」でなく伝統の中に育まれた日本古来の「精神文明」をベースに、新たなビジョンを打ち立て、「日本の絹」の再生・復活を切に願っています。

また、今後、延長線として従来困難だった分野での新しい用途展開にチャレンジしてみたいと企画しております。今後とも、関係各位からのご協力をいただければ幸いです。

---

まつもとのぶたか  
秩父シルクの会 代表  
((有) ハック 代表取締役)

## 平成 22 年度第 6 次純国産絹マーク使用許諾状況

(新規に寝衣(おくるみ)、禪を認定し、合計許諾者数は 144 者へ)

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成22年度第6回審査会を2月4日(金)に開催しました。今回、17件(うち、新規の申請7件、製品数量の追加申請が5件、製品の追加申請が1件、生産履歴の追加申請が1件、生産履歴・数量の追加申請が3件)から申請があり、審査委員会で審査した結果17件に対し、2月14日(月)付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

純国産絹マーク使用許諾者は次の17件です。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
富岡シルクブランド協議会 代表者名 岡野 光利 群馬県富岡市富岡1番地1 (担当者:原田知也) TEL 0274-64-0005 表示者登録番号 138	禪  ネクタイ	150枚  400本	制作企画 東北撚糸(株) 蚕品種 ぐんま200 繭生産 富岡シルクブランド協議会 養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 齋栄織物(株) (株)成和ネクタイ研究所 縫製 ペビードレス うぶ、成和(株)
株式会社丸年呉服店 代表者名 吉村 一 石川県金沢市青草町88 (担当者:吉村 一) TEL 076-231-5733 表示者登録番号 139	後染反物(小紋) (変一越)	60反	制作企画 田中種(株) 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 高田勝(株)
株式会社染織館 代表者名 後藤田 光年 徳島県徳島市昭和町3-11-1 (担当者:後藤田光年) TEL 088-652-3377 表示者登録番号 140	後染反物(小紋) (変一越)	30反	制作企画 田中種(株) 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 高田勝(株)
株式会社京ろまん 代表者名 郡 史朗 奈良県奈良市油阪地方町6-4 (担当者:郡 史朗) TEL 0742-27-8400 表示者登録番号 141	後染反物(小紋) (紋意匠)	35反	制作企画 田中種(株) 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 芝井(株) 染色 高田勝(株)
五嶋株式会社 代表者名 五嶋 茂 東京都文京区春日二丁目24番12号 (担当者:五嶋 茂) TEL 03-3812-2145 表示者登録番号 142	帯締 (内記耳付二色)  (ゆるぎ無地)	300本  300本	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 染色加工 大貫繊維(株) 組加工 自社
株式会社わふくや 代表者名 平松 実 静岡県浜松市中区早出町1259番地の19 (担当者:平松 実) TEL 053-463-8139 表示者登録番号 143	長襦袢地	80反	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 番國(株) 染色加工 (有)今井整理

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社布屋呉服店 代表者名 小長井 宏員 静岡県富士西市西町5番21号 (担当者:小長井宏員) TEL 0544-27-2580 表示者登録番号 144	胴裏絹 (トルマリン加工)	120枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 精練加工 (有)江島屋染工場
(製品の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町3-5-3 (担当者:土井芳文) TEL 027-361-2377 表示者登録番号021	寝衣 (おくるみ)	230枚	制作企画 絹小沢(株) (側) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株)カプト 精練加工 (有)江島屋染工場 (詰物) 繭生産 福島県内養蚕農家 真綿生産 石川彦太郎商店 縫製 中里諒子
(製品数量の追加) 株式会社まるため 代表者名 小池 正司 長野県長野市南千歳一丁目3番地5 (担当者:小池正司) TEL 026-227-5291 表示者登録番号078	胴裏絹 (トルマリン加工)  (パ-リ-加工)	300枚  60枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま200・世紀二一 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株)、 (有)長島織物 精練 (有)青池 精練加工 (有)江島屋染工場 加工 キヌテック(株)
(製品数量の追加) 株式会社登美屋 代表者名 高橋 祥元 岩手県北上市上江釣子18-14-1 (担当者:高橋祥元) TEL 0197-77-2121 表示者登録番号084	胴裏絹 (パ-ルト-ソ加工)	550枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株)カプト 精練加工 (有)江島屋染工場 加工 (株)パ-ルト-ソ
(製品数量の追加) 株式会社千總 代表者名 西村 總左衛門 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者:俵 武司) TEL 075-211-2531 表示者登録番号001	後染反物 (色無地) (色無地) (色無地) (色無地)	80反 80反 20反 35反	繭生産 岩手県南部・北部養蚕農家 青森県八戸市養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 美雲織物(株)、(株)竹林 染色 自社
(生産履歴の追加) 株式会社高島屋 代表者名 鈴木 弘治 東京都中央区日本橋2丁目4番1号 (担当者:鈴木弘治) TEL 03-3211-4111 表示者登録番号030	後染反物 (七五三着物) (色無地)	70反 30反	繭生産 岩手県南部養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 美雲織物(株)、(株)竹林 染色加工 (株)千總
(製品数量の追加) 株式会社宮川呉服店 代表者名 宮川 勝彦 北海道紋別郡上湧別町中湧別561 (担当者:宮川勝彦) TEL 0158-62-2042 表示者登録番号108	後染反物 (色無地)	10反	制作企画 (株)千總 繭生産 岩手県北部・中部、青森県 八戸市養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 美雲織物(株) 染色 (株)千總

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(製品数量の追加) 株式会社染織近藤 代表者名 近藤 典博 岡山県岡山市北区丸の内 1-7-3 (担当者:近藤典博) TEL 086-226-5298 表示者登録番号 107	後染反物 (色無地)	10 反	制作企画 (株) 千總 繭生産 岩手県北部・中部、青森県 八戸市養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 美雲織物 (株)、(株) 竹林 染 色 (株) 千總
(生産履歴・数量の追加) 株式会社丸上 代表者名 上達 征次 東京都中央区日本橋久松町 4 番 14 号 (担当者:齋藤清二) TEL 03-3662-4416 表示者登録番号 004	後染反物 (色無地) (染帯)	130 反 30 本	繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房、(株) 菱健 (株) 路考、きもの和楽 (株) 貴久樹 意 匠 自社
(生産履歴・数量の追加) 有限会社大善屋呉服店 代表者名 畑 恒夫 福島県会津若松市大町 1-1-53 (担当者畑 恒夫) TEL 0242-27-0404 表示者登録番号 018	後染反物 (色無地) (染帯)	10 反 10 本	制作企画 (株) 丸上 繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房、(株) 路考 きもの和楽、大宮染織 (株)
(生産履歴・数量の追加) 株式会社四季のきもの おおにし 代表者名 大西 嘉夫 東京都杉並区高井戸東 1-8-3 (担当者:大西嘉夫) TEL 03-3329-9374 表示者登録番号 036	後染反物 (色無地) (染帯)	20 反 10 本	制作企画 (株) 丸上 繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房、(株) 菱健 (株) 路考、きもの和楽 (株) 一満寿染匠

次回審査会の予定は平成 23 年 3 月 30 日 (水) です。申請される方は審査会の 10 日前までに申請書を提出してください。

## 支援センター活動日誌No. 17 (H23.1.1 ~ H23.2.28)

年月日	活 動 内 容 等
23.1.13	第8回事業推進委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
23.1.17	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（群馬県）
23.1.18 ~ 19 23.1.21	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（茨城県）
23.1.26	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（群馬県）
23.1.31	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（茨城県）
23.2.1 ~ 23.2.2	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（愛媛県）
23.2.3	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（福島県）
23.2.4	(社)日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 （東京都有楽町 蚕糸会館）
23.2.8	第9回事業推進委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
23.2.14	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（長野県）
23.2.15	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（福島県）
23.2.15 ~ 23.2.16	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（鹿児島県）
23.2.17 ~ 23.2.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（熊本県）
23.2.21	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（栃木県）
23.2.24 ~ 23.2.25	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（宮城県・福島県）

## 絹の箏弦復活の兆し

聖徳大学

教授 徳丸吉彦

### 1 箏と絹の弦

箏は13本の弦を張った楽器で、もともとは雅楽の楽器として使用されてきましたが、江戸時代以降は雅楽とは別の新しいジャンルで使われるようになりました。それが、近世邦楽の箏曲です。その初期の代表が箏組歌《菜蓂（ふき）》、《六段の調》や《乱れ》を作ったことで知られる八橋検校（1614-1685）です。その後も、このジャンルは古いレパートリーを守りながら、新しい作品を作り続け、現在に至っています。また、箏を弾く専門家は地歌という三味線音楽も演奏しましたので、同じ曲が箏でも三味線でも、あるいはその合奏でも演奏されます。

箏も三味線も、その弦はもともと絹から作られました。しかし、現在では三味線がほとんど絹の弦で演奏されるのに対して、箏はほとんど化学繊維の弦で演奏されます。箏の弦が絹から化学繊維に変わってしまったのは、一方で絹弦が弱くなり、他方で化学繊維の弦が強くなったからです。また、化学繊維弦の製作者たちが、絹弦を作る方

法を応用しながら、その響きをよくする努力を続けてきたことも、普及を進めました。

しかし、絹弦には化学繊維弦とは異なる音色があります。確かに、20世紀後半の作品の中には、大きい音量と堅い音色を出すために化学繊維弦を必要とするものがあります。しかし、多くの作品、とりわけ古典的な作品には、絹が出す微妙な音色が必要です。このことは、化学繊維を使う演奏家も認めるところです。しかし、演奏会の本番で、曲の途中で絹弦が切れることもありましたから、その危険を避けるために、多くの演奏家が化学繊維弦を選ぶようになりました。

### 2 桑の葉だけで育てた蚕からの弦

私は、絹の箏弦がなぜ弱くなったのか、と考えていました。以前から考えていたのは、蚕の餌の問題でした。昔の蚕は桑の葉だけで育てられましたが、現在では、人工飼料と桑の葉によって育てられます。養蚕の専門家に尋ねると、その違いが弦の強さに影響を与えることはない、ということ

---

---

した。私はそれでも納得せず、実際に同種の蚕を使って比較実験をする必要があると考えました。

4年前の秋に両陛下に私の仮説をお話する機会がありました。そうしましたら、皇后陛下から、紅葉山御養蚕所では桑の葉だけで育てているので、それを提供できる時に比較実験をしたらよいでしょう、とのお言葉を頂きました。翌年、二種の繭を頂きましたので、弦を作るのに相応しい方法で、蚕糸科学研究所で特殊生糸の形にして頂き、それを以前から相談に乗って頂いていた彦根の糸幸商店で、箏と三味線の弦にしてもらいました。その糸を、私の目的を理解して下さった演奏家に練習と舞台で使って頂いたところ、素晴らしい音色をもち、しかも、曲の途中で切れず、長持ちする弦であることが分かりました。

このことが、一つのきっかけになって、養蚕、繊維工学、弦製作、そして音楽の専門家とともに、研究会を作りました。養蚕農家に依頼した複数の種類の繭と紅葉山御養蚕所の繭から、太さの異なる箏弦や三味線弦を糸幸商店と丸三ハシモトに作って頂き、それを音楽家の方々に練習と本番で、あるいは、短期の比較実験のために演奏して頂きました。

その結果、小石丸、白繭種（日 137 号×中 146 号）、春嶺×鐘月などの響きと強さの特徴が、演奏と物理的なテストで、次第に明らかになってきました。よい絹弦を作るためには、徳丸の仮説の検証だけでなく、蚕の種類、太さ（重さ）を含めた糸の

作り方などの問題があることが分かってきました。

### 3 箏の絹弦を使うための困難さ

今までよりは強い絹の箏弦ができて、演奏する人がすぐに使ってくれるわけではありません。まず楽器の問題と楽器調整の問題があります。まず、箏の弦を 13 本バランスよく、また、必要とされる絶対的な音高にあわせて締めることは、演奏家にはできません。これは、箏屋さんと呼ばれる楽器調整の仕事です。この方たちの多くは、箏を作る仕事も兼ねています。私が 3 年前から絹弦を締める仕事を依頼してきた方々は、実は日本を代表する専門家でしたから、絹弦の種類や状態を考慮して、いつも上手に締めてくれました。しかし、他の多くの箏屋さんは、とりわけ若い世代の方々は、絹弦を締めた経験をもっていないことが分かりました。絹の弦を、化学繊維の弦と同じように強い力で引っ張りながら締めると、弾く前に弦が切れてしまうことさえあります。また、化学繊維の箏弦を普段掛けている箏に絹弦を掛けることはできません。絹と化学繊維では摩擦の度合いが違うので、締めた糸を安定させるのに使う材料が変わりますので、楽器を変えなければならないのです。

こうした事情が分つてくると、日本の箏がもう一度絹の弦で演奏されるようにするためには、少なくとも次の六者の協力が必要であることが分かってきました。

①養蚕農家、②糸製作者、③楽器弦の製

作者、④箏を選んで弦を締める楽器調整者、⑤絹弦を演奏できる演奏者、⑥絹弦の音色を識別できる聴衆。しかし、この六者がお互いに意見を交換することは、ほとんどありませんでした。

#### 4 関係者を集める

そこで、こうした問題を話しあうために、大日本蚕糸会から助成を頂き、私たちの研究会と大日本蚕糸会の共催で、「日本の絹弦による演奏会とシンポジウム」を平成22年12月25日（土）午後東京の紀尾井小ホールで開催しました。このホールは250席の邦楽専用に使われたホールで、生の音がどこからでもよく聴こえる優れたホールです。

まず、私の趣旨説明に続いて、蚕糸科学研究所長の清水重人所長が「国内蚕糸業の現状」を説明しました。ほとんどが音楽関係者であった聴衆は、日本の現状の厳しさを知って大変に驚いていました。

次に優れた演奏家で、しかも普段から箏弦を使っておられる音楽家に、皇后陛下より賜りの繭で作った絹弦（小石丸）で演奏



日本の蚕糸業を説明する清水重人氏

して頂きました。生田流箏曲の米川敏子師には八橋検校作曲の《乱れ》を、山田流箏曲の高橋榮清師には山田検校(1757-1817)作曲の《花妻》をそれぞれ箏で演奏して頂き、その後、地歌の人間国宝である富山清琴師におどけた内容の地歌《荒れ鼠》を三味線で演奏して頂きました。いずれも、素晴らしい響きで聴き手に感動を与えました。

次に「日本の箏糸を考える」というシンポジウムを1時間にわたって開きました。徳丸（司会）と清水所長の他、次の方々に参加をお願いしました。演奏家としては、山田流箏曲の山勢松韻師（人間国宝、芸術院会員、日本三曲協会会長）と生田流箏曲の安藤政輝師（東京藝術大学教授）。楽器調整の専門家としては、もっとも長く絹の弦の経験しておられる河合三雄氏（河合琴三絃店）と須田日出男氏（須田楽器店）。弦製作者としては、橋本圭祐氏（丸三ハシモト、長浜市）、小篠敏之氏（鳥羽屋、京都市）、宮元宏幸氏（糸幸商店、彦根市）。

詳細な発言内容は、目下編集集中のこの催し全体の報告書に収められますが、話題になった点を要約してみましょう。1) 演奏家が絹の箏弦を使ってよい響きを出せば、箏を習う人も絹の弦を使うようになるであろうこと。2) 演奏家が必要としているのは、音色のよい、そして切れにくい弦であること。3) 絹と化学繊維の弦の違いに、演奏家も異なる楽器や琴爪で対応する必要があること。4) 糸締め技術も伝承する必要があること。5) 糸作りに、演奏者や

---

---

糸締めの特⾨家の意見を反映させることができること。6) そして、日本の絹で日本の楽器の弦を作り続けるためには、糸作りと養蚕農家との連携が必要であること。

糸を作ってこられた方々と、糸絞めの特⾨家、そして演奏家が、直接に対話して、意見を交換したのは、今回が初めてであったようです。これを契機に、率直な意見交換ができれば、それがよい絹弦に反映され

ることでしょう。清水所長と音楽学専攻の私の役割は、よい反応を起こすための触媒であったと思います。

今回、こうした会合を開いて、絹弦の問題をみんなで考えることができるようになったのも、皇后陛下が日本の伝統的な方法で蚕をお育てになってこられたからでした。最後に皇后陛下に参会者一同、心から感謝を捧げました。

---

とくまる よしひこ  
聖徳大学(音楽学)教授



箏曲《乱れ》を演奏する米川敏子師



箏曲《花妻》を演奏する高橋榮清師



地歌《荒れ鼠》を演奏する富山清琴師

## シルク業界と産業遺産の保存・活用 —文化財としての日本の絹—

東京産業考古学会

副会長 平井東幸

### 1. はじめに

去年は、天然繊維の取材と報道では昔から定評のあった日本繊維新聞社が廃業したし、日本紡績協会の『日本紡績月報』も昨夏で廃刊し、120年あまりの歴史に幕を閉じた。業界団体の機関誌として恐らく最古のものであっただけに、まことに惜しまれる。同じく、昨夏には、60年以上続いた岡谷での「製糸夏期大学」に終止符を打った。年に一度、産学官が集まっての情報交換の貴重な舞台であっただけに、本当に残念でならない。

繊維業界は、40年以上にわたって川上から川下までの大きな構造変化が続いている。

小売市場では、ファストファッションの隆盛に対して百貨店やスーパーの減収が止まらず、業態間の格差がますます開いている。国内市場へのアパレル供給量の9割以上は輸入が占めており、そのうちの9割強が中国からである。この結果、国内の伝統的な繊維産地は壊滅的な打撃を受けており、もはや再生不可能ともみられ、伝統技術の伝承も困難になっていることは残念ながら周知の事実である。

しかし、こうしたなかで、シルク業界では、その伝統文化と技術の歴史的価値を早くから評価して、建物や各種の機械と製品の保存・修復と活用に官民学あげて取り組まれていることに敬意を表したい。

小論では、蚕糸・絹業の産業遺産を、文化財としての側面から光を当てて、ご紹介してみたい。

### 2. 重要文化財の富岡製糸場

シルク関係の産業遺産としてまず取り上げたいのは、いや第一に取り上げなければならないのは、群馬県富岡市が管理保存している旧富岡製糸場である。1872(明治5)年、フランスの技術により開所した初の官営製糸工場である(写真)。片倉工業が事業閉鎖後も長らく保存につとめ、近年地元の富岡市が譲り受けて管理している。国内で明治時代のこれだけ大規模な工場とその付属施設がそっくり保存されている例は繊維以外でも他にはない。この点が大きく評価されて、全体が平成17(2005)年に国の史跡に、平成18(2006)年には工場、倉庫のみならず、首長館、女工館、検査人館等の9棟が、重文指定を受けた。さらに

---

---

世界遺産暫定リストにも挙げられている。ユネスコの世界遺産に登録されている繊維関係はかなりの数にのぼるが、そのほとんどは産業革命当時の綿業の工場等であり、シルクではきわめて少ない。また、繊維関係で国の重要文化財に指定されている建造物は、このほかには大阪の綿業倶楽部、鹿児島旧鹿児島紡績所技師館のみである。この2点からも、富岡が国内だけでなく世界的にみてもいかに貴重であるかが、分かるというものである。

なお、文化庁のホームページによると、重要文化財指定の経緯は次の通りである。

「明治政府の殖産興業政策に基づいて設立された官営の模範器械製糸工場である。

明治4年3月に起工、翌5年7月に繰糸所と東西の置繭所が落成、同年10月4日に開業した。繰糸所は平屋建、東西の置繭所は2階建て、ともに桁行100m以上の大規模な木骨煉瓦造である。旧富岡製糸場の繰糸所、東西の置繭所等は、明治初期の官営製糸工場遺構で、開業時に近い時期の主要生産施設がほぼ完存しており、高い歴史的価値がある。また、木骨煉瓦造を中心とした我が国最初期の西洋式建築の構造技術や建築技法を伝えており、学術的に高い価値がある。」

個々の建物などの詳細についてはネットで検索していただきたい。



旧富岡製糸場の東繭倉庫  
提供：群馬県世界遺産推進課

### 3. 全国のシルク関連博物館・資料館

以上、「産業遺産」という語を説明もせずに使ってきたが、ここで、その定義をしておこう。産業遺産とは、「産業および産業技術にかかわる遺産、つまり、考古学という遺跡・遺構・遺物である。ただし、一部現役のものも対象に含まれる。具体的には、工場建物、機械器具、図面、文書、映像など、さらに近年は景観も含めるとされている。なお、産業遺産とほぼ同義語に「産業文化財」という表現がある。文化財というと、従来、とかく、社寺仏閣、仏像、絵画、美術工芸品、あるいは考古学の対象である埋蔵文化財が中心であったが、明治以来、わが国を世界第3の経済大国に押し上げて来た産業に関する建物、機械等の文化財としての重要性がここ20年来広く認識されるようになってきた。このほかに、文化庁の造語「近代化遺産」や経産省の造語の「近代化産業遺産」がある。

そこで、本論にもどると、蚕糸・絹紡績、絹織布などの機械器具、その製品、関連する建物・・・工場、倉庫、事務所などは、シルク産業の歴史を示す貴重な「産業遺産」すなわち「産業文化財」である。中世以降の手工業と生活と文化を支え、とくに明治維新以降は日本の近代化・工業化を推進した歴史の証人であり、最大の貢献者であった。それだけに、シルク関連の産業遺産は、日本の経済社会の発展の歴史を示している誇るべき遺構、遺物である。

そこで、こうしたシルク関係の産業文化

財を収蔵・展示している博物館、資料館全国にはどのくらいあるだろうか。流石、本誌には毎号、「蚕糸関係博物館一覧」が掲載されているが、それによると、次表の示すように全国に56の施設がある。

表 蚕糸・絹業関係の博物館等

区 分	施設数
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設	28
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設	12
その他関連施設	16
合 計	56

このうち、シルクの展示を目的とする施設が28もある。このなかには、東京農工大学科学博物館（旧繊維博物館）、岡谷市立の蚕糸博物館、群馬県立の日本絹の里、学校法人の文化学園服飾博物館、企業博物館の片倉シルク記念館やゲンゼ博物苑、横浜のシルク博物館、西陣織会館、さらに桐生市の民間の織物参考館紫（ゆかり）など、収蔵品が多く一部には動態展示（機械が稼働する展示）をするような優れた施設が多い。二番目は、新潟県十日町市博物館のように産地の郷土資料館などが地場産業としてのシルク関係の充実した展示をしている施設が12ある。三番目には、結城市の伝統工芸館のようにシルク関連の展示場が16ある。こうした施設では、蚕糸・織物の製造工程を機械・器具とその解説によって展示するところと、絹織物などの製品の

---

---

展示を主体とするところに大別される。また、実際に来館者が織布などを体験できるところ、あるいは、製品を展示販売するところ、広くシルクの役割や重要性を広報するところありと、その運営は、運営主体や立地に応じて多様であり、しかも地域活性化への貢献という観点からも興味深い施設が多い。

なお、施設数を地域別にみると、東北が6、関東16、甲信越17、中部4、近畿9、北陸1、中国1、四国2であり、当然ながら全国の蚕糸・絹業のかつての主要産地に立地している。

以上の56館のほかにも、信州大学繊維学部などでは貴重な産業遺産を所有しているだろうし、全国にはまだまだ、シルク関係の貴重な産業遺産を保存している個人や企業が多数ある。この点に関しては次号でご紹介したい。

このように、全国には多様なシルク関係の博物館・資料館があり、貴重なシルク産業文化財が大事に保存展示されていることは、まことに慶賀に堪えず、心強いことである。

---

ひらい とうこう

東京産業考古学会副会長、嘉悦大学  
元教授、日本化学繊維協会元調査部長

## 最近の韓国養蚕業の動向

(機能性養蚕で活路)

韓国生糸輸出入組合

元副理事長 李 英 烈

韓国の養蚕業は、20年近く国内外の状況の悪化により急激に衰退した。かつて養蚕業のピーク時の60年代の養蚕農家数は50万戸あったが1995年には5千戸まで減少し、ついに1999年には蚕業法が廃止されるようになり、養蚕業は産業としての限界に至った。しかし、この間の1990年代後半、蚕の粉末による血糖値降下の効果などが研究され、養蚕業が機能性食品として産業化の可能性が提起され、脚光を浴びるようになり、急遽、大韓蚕糸会等関係業界では関連法の制定に努力してきた。

2009年中ごろいわゆる「機能性養蚕産業育成及び支援に関する法律」が議員立法により制定されることになり、これを契機として養蚕業が高付加価値成長の動力産業として発展できるよう制度的、法的整備が行われた。したがって、その後この法律が定められたことによって高品質生産基盤の助成、専門職員の育成及び技術教育の促進、R&D（研究・開発）の活性化、加工・マーケティングの強化などを重点的に推進し、韓国シルク産業に活路を見出すことに至っている。

### 1. 機能性養蚕産業育成及び支援計画の内容

はじめに、機能性養蚕とは、桑、繭、その他大統領令で定める産物及びその副産物から人体に有用な効果を与える食品、素材（具体的には蚕粉末、冬虫夏草、桑葉茶、シルクパウダー、シルク化粧品）などを生産・加工する産業のことである。（法律第2条に定める。）

- 養蚕業の生産基盤助成を通じた円滑な原料供給によって、競争力のある高付加価値産業として育成するために、用途にふさわしい桑品種の育成・普及を漸進的に拡大させ苗木の流通管理を強化する。
- 専門職員の育成及び技術教育を強化し、機能性養蚕産業の研究開発を促進することを目標に、関係研究機関及び大学に関連科目を開設し機能性産業化のための専門職員を養成する。
- 機能性養蚕産業化の研究開発を促進する。いわゆる R&D（研究・開発）の活性化で機能

性養蚕産業化の「専門研究機関」を育成することにより、基礎研究によって新素材の商品開発を拡大させる。

- 農家所得と連携できる加工流通の活性化及びマーケティングを支援する。
- 制度改善及び補完を通じた産業化を促進し、蚕業関連、行政、研究組織、団体などの機能を補完、改編し産業化を促進する。

## 2. 機能性養蚕業育成のための年度別支援プロジェクト（投融資計画）

\*本計画を遂行するために、今後5年間（2011年～2015年）総額528億ウォンを投資する。

\*投資対象は、関係施設の現代化（施設の改善）の推進、専門研究機関の育成、技術教育等の推進であり、これらの基盤拡充を重点的に推進する。

\*総額528億ウォン中、国庫は施設改善及び補完、R&D、技術教育など5年間で386億ウォンを支援する。

\*5年間の具体的な支援プロジェクトは以下のとおりであり、目標として現況の機能性商品種類14種類及び一戸当たり農家生産額6百万ウォンを2015年にはそれぞれ42種類、1億2百万ウォンとする。（参考：1ウォン＝0.07円）

### 年度別投融資計画

（単位：百万ウォン）

項目	事業量	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	計
1. 養蚕産業基盤助成		—	1,185	1,705	1,270	1,160	5,320
・人工飼料施設の現代化			25	545	110	1,160	680
・多目的蚕の飼育施設 （蚕種生産施設を含む）	80カ所 （毎年20カ所）		1,160	1,160	1,160	1,160	4,640
2. 養蚕産物 生産流通支援		450	2,530	4,030	7,030	5,430	19,470
・微細粉末等製造・加工施設	16カ所 （毎年4カ所）		480	480	480	480	1,920
・養蚕産物・冷凍貯蔵施設	50カ所 （毎年10カ所）	450	450	450	450	450	2,250
・養蚕産物生産・流通モデル団地 （3カ年事業）	3カ所		1,600	3,100	6,100	4,500	15,300
3. R&D 事業		4,350	5,450	5,200	5,400	5,400	25,800
・新品種育種及び新環境の栽培 技術研究		1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	5,100
・養蚕産物の機能性商品化の研究		1,150	1,750	1,700	1,800	1,800	8,200
・高付加価値の食医薬素材として 開発研究		2,200	2,600	2,500	2,600	2,600	12,500
4. 技術教育広報事業		—	550	550	550	550	2,200
・技術教育			50	50	50	50	200
・広報			500	500	500	500	2,000
合計		4,800	9,715	11,485	14,250	14,540	52,790

参考資料

1. 養蚕農家数と桑畑面積規模

区 分	2006年	2007年	2008年 (A)	2009年 (B)	B/A
養蚕農家数 (戸)	2,073	2,039	1,810	1,351	△ 25.4
桑園面積 (ha)	1,005	1,038.7	898.5	662.6	△ 26.3
掃立量 (箱) (戸当り規模)	22,793 (11.0)	24,164.5 (11.9)	21,605.5 (11.9)	16,154 (11.9)	△ 25.2

2. 年度別養蚕規模

区 分	'76年	'90年	'95年	'00年	'05年	'08年	'09年
養蚕農家 (千戸)	488.0	32.0	5.0	3.7	2.4	1.8	1.4
桑園面積 (1000ha)	82.9	13.3	2.5	1.5	1.0	0.9	0.7
掃立量 (千箱)	1,294	171	32	36	26	22	16

3. 養蚕産物生産現況

(単位：kg)

区 分	2007年	2008年	2009年
繭 (1)	14,367	11,550	15,429
乾繭	182,494	158,099	88,048
冬虫夏草 (2)	23,794	4,449	2,286

注) (1) 繭生産量は製糸用+種繭 (2) 冬虫夏草は生草基準

り えいれつ

韓国生糸輸出入組合 元副理事長

## 国内産地情報

### 絹織物産地の概況（1月）

原糸高から糸の手当は縮小しており、在庫は少ないものの当用買に徹している

#### <原糸>

中国の生糸価格は、若干値下げしたものの、今後の状況を考慮すれば、原料価格は当分高値維持が続くものと思われる。一方、織物の販売価格が厳しく、原料手当は慎重になり、流通業者、機業ともに生糸在庫は少なく当用買に徹している。

#### <白生地>

- ・ 丹後の縮緬生産は、前年同月比3%の増となっている。無地は同3%の増産、紋も3%の増産となった。しかし、川下の売れ行きが不振で今後は厳しくなると思われる。
- ・ 長浜の生産は、原料の値上げから織物への値上げを要求されているが厳しい。
- ・ 五泉は、織物の生産量は6.4%の増産であった。
- ・ 福島は、生産量は機業によってまちまちだが総じて減少傾向。
- ・ 石川は、合繊薄地織物は良いが、絹は原糸代が高く製品代が付いてこない。
- ・ 福井は、広幅、小幅羽二重ともに生産量は増加、輸入品との格差はまだ差がある。
- ・ 群馬・埼玉は、両産地共に生産は昨年実績を上回つたが売行きは低調。

#### <先染織物>

- ・ 西陣の帯は、生産状況は全体的に減産である。しかし、値頃品については生産は横這いである。ただ、高級品、中級品の生産機業は販売不振で厳しい状況である。
- ・ 博多は、紋織は袋帯八寸、佐賀錦と減少している。平地八寸、紗八寸は前年を上回っている。在庫は紋系が増えている。
- ・ 十日町は、売れ行きは付下げ、訪問着、紬紵等が良かったが、振袖は不調であった。
- ・ 山梨は、ネクタイの生産は一部に動きはあったが産地全体では悪い。服地は発注は出来ているが、納期に追われての生産状況である。
- ・ 米沢は、内地呉服物は春物の商談等により、ロットは細かいが差別化商品が多数見られる。呉服は袴、紬着尺、帯等の動きが余り見られず苦戦している。
- ・ 西陣のネクタイは、端境期であり、一部の機業を除いては全般的に稼働率は低く。サンプル取りに終始している。

\*（社）日本生糸問屋協会月報 23.2.16 第 744 号による。

---

---

# 海外シルク情報

## 中国

### 2010年の広西壮族自治区の養蚕業は飛躍的に拡大

2010年12月24日付けの広西蚕業科学研究院の発表によれば、2010年度の同自治区の桑園面積は14万ha、家蚕繭生産量は21.4万トンとなり、いずれも全中国の3分の1を占めており、これまでの最高記録を記録した。第11次5ヶ年計画(2005年～2010年)期間中、同自治区の養蚕業は、科学技術を原動力としてその規模を飛躍的に拡大してきている。2005年当時の桑園面積は9万4千ha、同家蚕繭14.8万トンであり、この時点で全中国の繭生産の25%を占めて中国でNo.1の生産産地となった。これが2010年末に至って、上述のとおりになり、2005年実績と比較すると桑園面積は49%増、家蚕繭生産量は44%増となった。同時に、生産性面では蚕種1枚当たり繭生産量は38kg前後となり、一方、製糸業の面でも原料繭の解じょ率と生糸量歩合が向上したことにより、生産される生糸の等級(格付け)は浙江・江蘇省の生産生糸の5A、6Aには及ばないものの、3A、4Aまでに到達してきている。

また、蚕品種についても、自治区内で育成した優良蚕品種は、既に2,000万枚を超える程度まで普及してきており、中でも「両広2号」(蚕品種名)が最も普及しているものになっている。桑品種についても、優良品種が育成されており、既に10万ha植栽され、同自治区の70%以上を占めるようになっている。

第12次5ヶ年計画の年度末2015年度には、桑園面積18万7千ha、家蚕繭生産量30万トン、年間生糸生産量2.5万トン(41万7千俵)となることが見込まれている。

### 中国の繭生産久し振りに増産へ

1月17日の中国農業部の発表によれば、中国全体の2010年度の繭生産状況は、次のとおりである。

- 蚕種掃立数量：1,576万枚(対前年比9.8%増)
- 家蚕繭生産量：61.6万トン(対前年比10.7%増)
- 全国桑園面積：80.7万ha(対前年比2.2%増)

このように、2010年度の繭生産は、リーマンショック直後の2008年と2009年と2年連続して大幅に減産した後、久し振りに増産を記録するところとなった。ただ、繭生産にとって天候・気象条件は、必ずしも有利でなかった模様である。昨年、上期の西南地区(四川、広西地区等)では干ばつが発生し、長江の中・下流地帯では春季に低温・冷雨が続き養蚕飼

---

---

育時期が10日以上遅延したこと、また秋季には長江流域の北部産地では、高温・多湿が続  
き、蚕病が発生し、上簇しても繭を作らない被害が発生したことである。これらのハンディ  
を克服して増産になった最大の理由は、年間を通じて農家からの繭買上げ価格が大幅に上昇  
したことにより、農家の増産意欲を強く刺激したことである。報告によれば、2010年の全  
国平均生繭買上げ価格は、30.88元/kgであり、これは前年より9.38元/kg値上げとなり、  
その対前年増加率は43.6%もアップしている。

このように、繭買上げ価格が大幅に上昇したと同時に同生産量が約一割増加したことから、  
全国の農家の養蚕総収入は、191.1億元となり、前年より70.9億元増加し、対前年比59%  
増となり、史上最高水準となった。

\*日本生糸問屋協会月報 23.1.17 第743号及び 23.2.16 第744号による。

## 度重なる明治期の蚕糸不況

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

わが国は、横浜開港以来、貿易が盛んになりだすと、海外の政治や経済状況に大きく影響されるようになりました。

鎖国時代には、全く考えられないような経済不況にたびたび見舞われ、この苦境を乗り切りながら、日本の経済は発展を遂げました。

それでは、明治初めごろからの大きな経済不況と蚕糸業への影響について、概観してみましょう。

### 1 1870（明治3）年後半からの不況

1869（明治2）年は、開港以来の好景気であったといわれています。

生糸や蚕種などの輸出品は高値で取引され、特に蚕種の値段は法外の価格で取引されました。「短命に終わった蚕種輸出」のところで述べましたように、原価 1,000 円の蚕種が、横浜では 1 万円で取引されたという事例やこれ以上になった事例があるように、いかに利益が上ったかが分かります。

ところが、フランスが普仏戦争に敗れ（1870年9月2日、ナポレオン3世降服）、輸入を停止すると、わが国からの輸出品は暴落しはじめ、蚕種に至っては前年の 10

分 1 以下に暴落するという事態を招き、値上がりを見込んで仕入れた蚕種はゴミ屑同様にになってしまい、大きな負債を抱えた商人は横浜から消えていきました。この蚕種販売事業に手を出した商人の中には自殺者も出てしまいました。

### 2 松方財政と国内の不況

わが国は西南戦争（明治 10 年に西郷隆盛らが起こした反乱）後に、激しいインフレーションが起こり、財政困難に陥ってしまいました。

このため政府は 1880（明治 13）年には酒造税などの値上げ徴収を行い、官営工場の払下げ方針を決めるなど、財政や紙幣整理に着手しはじめました。

翌 1881 年、松方正義（1835～1924 年）が大蔵卿に就任すると、増税によって歳入の増加をはかる一方、歳出を徹底的に削減し、厳しい緊縮政策を実行しましたので、米・繭・生糸等の価格が暴落し、全国的に深刻な不況に陥ってしまいました。

このような国内の不況が続く中、追い討ちをかけるように、1883（明治 16）年に起こった世界的不景気の影響を受け、翌年

は、糸価が更に暴落、輸出停滞で大変な不況になってしまいました。

わが国の生糸価格暴落・輸出停滞に直接影響した原因は、この世界的不景気の中でも、特に生糸取引量の多い米国の不況でした。大統領選で民主党のクリーヴランドが当選（第22代大統領）し、米国の国内は産業度外視の浮き立ち騒ぎとなっていたところに、1883年からの世界的不景気の影響を受けた産業界は、たちまち停滞し倒産者の続出、倒産額の増大という不況に落ち込んでしまいました。

第8表 1884（明治17）年の信州太一番  
価格（100斤当たり）と生糸輸出状況

6月価格	9月価格	9月価格の 6月比
670円	565円	▽16%
明治16年生糸輸出総量 3,131,536斤 明治17年生糸輸出総量 2,099,081斤 前年比33%減少（輸出額は32%減少）		

昭和4年度「世界蚕糸絹業年鑑」、  
昭和14年7月「蚕糸業要覧」から作表

わが国の生糸輸出量の約半分は、米国に向けられるようになっていた時期ですので、米国の不況の影響をまともに受けてしまったのです。

### 3 米国の経済恐慌等による1890（明治23）年からの不況

わが国は1890（明治23）年、下半期のニューヨーク為替相場の変動により、対米取引が停滞してしまいました。

更に悪いことに、米国は同年11月から

経済恐慌に陥ったため、同国へのわが国からの輸出は全く停滞してしまいました。

ヨーロッパの諸国でも金融が逼迫しており、フランスはわが国からの生糸輸入を休止してしまいました。

このころの欧米では、木綿・毛等との交織が流行し、絹の需要が減退している時期でもありました。

このような世界不況と繊維需要の変化に、わが国の生糸相場は、1890（明治23）年下半期から翌年にわたり暴落し、輸出の停滞を招き、蚕糸業界は大きな打撃を受けてしまいました。

### 4 米国の購銀条例廃止による不況

わが国は、1893（明治26）年にも恐慌的な生糸暴落をしました。

この年のフランス向け輸出は、前年にも増してよい状況でしたが、米国の購銀条例の廃止によって、銀貨は大暴落、為替相場の変動が大きく安定しないため、輸出は抑制され、生糸の暴落を招いてしまいました。

第9表 明治26年の生糸暴落状況

4月価格	10月価格	10月価格の4月比
985円	740円	▽25%
明治25年生糸輸出货量 5,431,478斤（100） 明治26年生糸輸出货量 3,715,163斤（68）		
明治25年生糸輸出額 36,320,681円（100） 明治26年生糸輸出額 28,173,979円（78）		

備考：生糸価格は100斤あたり。（ ）内は明治25年を100とした指数。昭和4年度「世界蚕糸絹業年鑑」、昭和14年7月「蚕糸業要覧」から作表

第9表からもわかるように、生糸輸出量は前年比約32%減、生糸輸出額は約22%減と落ち込み、養蚕農家をはじめ蚕糸業界は、厳しい経営状況に追込まれてしまいました。

## 5 日清戦勝の好景気の反動による不況

わが国は、1894（明治27）年、日清戦争に勝利し好景気に沸いていましたが、この反動が早くも1896（明治29）年に起こり、生糸は大暴落をしてしまいました。

この暴落原因も米国の不景気に起因しておりました。

第10表 明治29年の生糸暴落状況

	生糸輸出量	上州一番 100斤 当たり生糸相場
明治28年	5,811,533斤 (100)	930円(9月相場) (100)
明治29年	3,918,994斤 (67)	625円(4月相場) (67)

備考：（）内は明治28年を100とした指数  
昭和3年3月「蚕糸業要覧」、  
昭和4年度「世界蚕糸絹業年鑑」から作表

米国では昨年来、絹織物の消費が増大することを見越して、機業の設備投資を行い事業の拡大をすすめておりました。ところが、織物の盛んなフランスでも同様に機業の事業拡大に取り組んでいたため、供給過剰を招く結果になってしまいました。また、ベネズエラ干渉（米国がベネズエラの内戦によって被害を受けた英国・ドイツなどの外国資産補償問題を調停し、ベネズエラが勝訴）で、米国と英国との国際的感情のもつれから、英国資本が米国から引上げた

ため、米国内の金融に大きな影響を与えるなど、たちまち米国は不況に追込まれ、第10表に示しましたように、わが国からの輸出生糸にも大きな影響を及ぼしてしまいました。

## 6 1900（明治33）年の豊作貧乏と内外における絹消費の減退

ヨーロッパでは南アフリカ戦争（1899～1902年、英国は南アフリカのトランスヴァール共和国との戦争で勝利し、南部アフリカ一帯の覇権を確立）の不安から物価の低落と絹離れという悪条件が重なり生糸の価格は低落してしまいました。

第11表 明治33年の生糸暴落状況

明治32年11月 価格	明治33年10月 価格	前年との価格比
1,310円	765円	▽42%
明治32年生糸輸出総量 5,946,911斤 明治33年生糸輸出総量 4,630,903斤 （明治33年生糸輸出額は前年比28%減少）		

備考：生糸価格は100斤あたり。昭和3年3月「蚕糸業要覧」、昭和4年度「世界蚕糸絹業年鑑」から作表

一方国内では、横浜市場で度量衡問題から売買両者の間で紛争が起こり、生糸市場の人気を落としてしまいました。また、為替相場の低落、荷為替の日歩の値上げが行われ、更に、内地の生糸消費の大きな落ち込み（前年に比較し35%の減少）、豊作による繭の増収などのマイナス要件が重なったために、第11表からも分かるように、生

糸の暴落(前年比 42% 減)と輸出の停滞(前年比 28% 減)を招いてしまいました。

## 7 1907～1908(明治40～41)年の米国の経済恐慌と蚕糸不況

1907(明治40)年の半ば過ぎから米国で経済恐慌がはじまり、ニューヨークの生糸商や絹物商の中に破綻する者が多くなり、翌年には絹物工場の機(はた)織機の運転台数は通常の3分の1程度になってしまったといわれています。

第12表 明治39～41年生糸輸出货量

	生糸総輸出货量	生糸総輸出価額
明治39	10,394,693 斤 (100)	110,499,375 円 (100)
“ 40	9,354,361 (90)	116,888,627 (106)
“ 41	11,521,795 (111)	108,609,052 (98)

備考：( ) 内は明治39年を100とした指数  
昭和14年7月「蚕糸業要覧」から作表

こうした米国の影響を受けて、1907(明治40)年4月の現物1,430円(100斤当たり)は、翌年4月には820円(43%減)に暴落してしまいました。糸価が大暴落したため、蚕糸業界は大変な苦境に立たされ

第13表 明治40年代前半の日本及び清・イタリーの生糸輸出货量 (単位：千t)

	総数	日本	清(中国)	イタリー
明治40	22,060 (100)	6,370 (29)	6,405 (29)	4,820 (22)
“ 41	24,080 (100)	7,570 (31)	8,016 (33)	4,486 (19)
“ 42	24,510 (100)	8,372 (34)	7,480 (31)	4,251 (17)
“ 43	24,495 (100)	8,935 (36)	7,830 (32)	3,947 (16)
“ 44	24,570 (100)	9,370 (38)	7,670 (31)	3,490 (14)

昭和14年7月「蚕糸業要覧」から作表

てしまいました。第12表に示しましたように、年間を通じての輸出货量は10%程度の減にとどまりましたが、糸価の暴落が大きかったので、蚕糸業界は大きなダメージを受けてしまいました。

以上のように、わが国の蚕糸業は、明治期に度々世界の経済恐慌等に巻き込まれ、この中から脱出するという厳しさを体験しながら成長し、1909(明治42)年には第13表に示しましたように、清国(現在の中国)を抜いて、生糸輸出货量世界第1位になりました。

こいずみ かつお

シルク博物館 元部長

# イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
<p>かながわシルクフェア2011</p>	<p>かながわシルクフェア2011は、多彩なシルク製品を一堂に集めて広く紹介します。会場では、スカーフアレンジやメイクアップ教室など実施し、女性のオシャレとファッションを応援します。</p> <p>(入場無料)</p>	<p>平成23年3月4日(金)～ 11日(金)</p> <p>AM10:00～PM6:00</p>	<p>会場:シルクセンター地下1階、イベントスペース(横浜市中区山下町1番地)</p> <p>主催:かながわシルクフェア実行委員会(構成)(社)神奈川繊維協会、横浜繊維振興会、(財)繊維産業会、協同組合ギルダ横浜、(財)シルクセンター、国際貿易観光会館、神奈川県他</p> <p>協賛:(社)日本生糸問屋協会、(社)日本絹業協会、日本スカーフ協会 後援:中央蚕糸協会、(社)日本絹人織工業会他</p>
<p>第11回群馬の絹展 ～“絹の郷”群馬生まれ のシルクとのふれあい～</p>	<p>群馬県内で生産された繭、生糸を使い、歴史と伝統に培われた染織や最新加工・製造技術を創り上げた織物、ニット、工芸品などの絹製品を一堂に集めて、県内外の関係者、消費者の皆さんに紹介し、「群馬の絹」を実感していただきます。絹製品作り、着付け等の体験、実演イベントを実施します。</p> <p>観覧料:一般200円(160円)、大高生100円(80円) ( )内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料</p>	<p>平成23年3月10日(木)～ 15日(火)</p> <p>AM9:30～PM5:00</p>	<p>会場・共催・お問合わせ 群馬県県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 <a href="http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp">http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp</a></p> <p>主催:群馬の絹活性化研究会 後援:群馬県、上毛新聞社、朝日新聞前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局他</p>
<p>2011西陣織大会 西陣織大博覧会 テーマ「伝統への新しい挑戦」</p>	<p>伝統を誇る西陣産地が、西陣織製品の優秀作品を一堂に展示公開し、「感性」「技術」「意匠」「織組織」「市場性」を競う共に、本年の商品傾向並びに新商品を発表し、躍進を目指します。 また、相乗効果を期して「伝統の日」「京友禅」とリンクして実施します。</p> <p>(入場無料)</p>	<p>平成23年3月19日(土)～ 21日(祝)</p> <p>AM10:00～PM5:00 (但し21日は午後4時まで)</p>	<p>会場:京都市勧業館みやこめっせ3階 (京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)</p> <p>主催:西陣織工業組合 共催:京都府・京都市</p> <p>後援:経済産業省、近畿経済産業局、(社)日本絹人織織物工業会、(財)伝統的工芸品産業振興協会他 協賛:(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹業協会他</p>
<p>第7回日本絹の里工芸展</p>	<p>今回で7回目を迎える「日本の絹の里工芸展」では、より多くの方々に天然素材である絹の素晴らしさを知っていただくため、絹や繭などの素材を活かした作品を制作している工芸作家と日本絹の里友の会会員の作品を展示し、絹の素晴らしさをご紹介します。 主な作品として、絹を用いた染物や織物、人形、刺繍などを展示します。</p> <p>観覧料:一般200円(160円)、大高生100円(80円) ( )内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料</p>	<p>平成23年3月19日(土)～ 4月18日(月)</p> <p>AM9:30～PM5:00</p> <p>休館日 毎週火曜日</p>	<p>会場・主催・お問合わせ 群馬県県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 <a href="http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp">http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp</a></p> <p><a href="http://www.silkmuseum.or.jp/">http://www.silkmuseum.or.jp/</a> 共催:日本絹の里友の会</p>

# 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 23 年 2 月 14 日現在

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
* 1	株式会社千總	後染反物（訪問着・付下・色無地、振袖）、胴裏絹
2	株式会社織匠田歌	先染反物、先染帯
* 3	有限会社ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
* 4	株式会社丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付、染帯）
* 5	株式会社坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
* 6	有限会社平原	後染反物（色無地、黒紋付）
* 7	株式会社信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
* 8	株式会社きものアイ	後染反物（色無地）
* 9	株式会社上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
* 10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
* 11	株式会社銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、先染反物（大島紬、結城紬）、染織作家製品、八掛、御召、帯地、帯締、羽織紐
12	河瀬満織物株式会社	先染帯
13	有限会社織匠小平	先染帯
* 14	門倉メリヤス株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
* 15	株式会社結華	後染反物（色無地、黒紋付）
* 16	有限会社絹回廊	後染反物（色無地）
* 17	有限会社琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
* 18	有限会社大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付、染帯）
* 19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
* 20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
* 21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏絹（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200（灰汁浸加工、トルマリン加工）五ツ星（ぐんま 200、よろこび、世紀 21）、長襦袢地、白生地（世紀 21）、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）、袱紗、寝衣（うぶ着、おくるみ）
22	宮階織物株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	帯（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
* 24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、マフラー
* 25	丸幸織物有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染着尺、後染着尺
* 27	有限会社織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウオーマー・腹巻、手袋・靴下））
* 28	株式会社丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越、紋意匠、友禅）、帯
* 29	株式会社むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
* 30	株式会社高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地）、長襦袢
31	株式会社さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
* 32	有限会社まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
* 33	有限会社特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
* 34	株式会社小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
* 35	株式会社伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地、帯地、着尺）、胴裏絹
* 36	株式会社四季のきものおおにし	後染反物（色無地、黒紋付、染帯）
* 37	株式会社和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社柵屋高尾	帯（袋帯）
* 39	株式会社つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
* 40	株式会社越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
* 41	株式会社小倉商店	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）、白生地（結城紬）
* 42	染織家 柳 崇	先染反物、帯
* 43	染織家 児玉 京子	先染反物
* 44	草木染工房山村	先染反物、帯、ストール
* 45	手織り よおん	先染反物、帯
* 46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯
* 47	株式会社龍工房	組紐
* 48	からん工房	先染反物（紋紬）、先染反物（緋）、帯
* 49	たわた工房	先染反物、帯

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
50	山音株式会社	後染反物（変三越、駒紹）
51	やまと株式会社	後染反物
52	株式会社御菌織物	先染反物、帯
53	桜井株式会社	先染帯
54	有栖川織物有限会社	帯
55	太田和株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
56	株式会社岩田	帯
* 57	有限会社神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物株式会社	帯
59	株式会社やまと	帯
* 60	田中種株式会社	後染反物（小紋）
* 61	株式会社京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
* 62	株式会社なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事株式会社	和装小物（帯揚、半衿）
* 65	加賀グンゼ株式会社	胴裏地
66	千切屋株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯
67	荒川株式会社	和装小物（帯締、帯揚）
* 68	第一衣料株式会社	後染反物（色無地）
* 69	株式会社紅輪	後染反物（色無地）
* 70	装いの道株式会社	胴裏絹（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま 200、ぐんまレピア、新小石丸）
* 71	株式会社高橋屋	胴裏絹（灰汁浸け加工）
* 72	おお又株式会社	胴裏絹（灰汁浸け加工）
* 73	株式会社天野屋呉服店	胴裏絹ぐんま 200（灰汁浸け加工）、白生地
* 74	株式会社さきもの潮見	胴裏絹（パールトーン加工）
* 75	株式会社とみひろ	胴裏絹ぐんま 200（酵素精錬）
* 76	株式会社細安	胴裏絹ぐんま 200（酵素精錬）
* 77	京和きもの株式会社	胴裏絹ぐんま 200（酵素精錬）
* 78	株式会社まるため	胴裏絹（トルマリン加工、パーリー加工）
* 79	株式会社小川屋	胴裏絹ぐんま 200（トルマリン加工、灰汁浸け加工）
* 80	株式会社エムラ	胴裏絹（酵素精錬）
* 81	株式会社荒井呉服店	胴裏絹（酵素精錬）
* 82	株式会社牛島屋	胴裏絹（酵素精錬）
* 83	株式会社谷呉服店	胴裏絹（酵素精錬）
* 84	株式会社登美屋	胴裏絹（パールトーン加工）
* 85	株式会社川平屋	胴裏絹（パールトーン加工）
* 86	丸専第一衣料株式会社（丸専きもの）	胴裏絹（パールトーン加工）
* 87	株式会社大丸松坂屋百貨店	胴裏絹、比翼（振袖用）、長襦袢
* 88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
* 89	株式会社あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社川まん	白生地
92	有限会社結城屋	白生地
93	株式会社ウメショウ	白生地
94	株式会社大徳	後染反物（色無地）
* 95	有限会社カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用、合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社北尾織物匠	袋帯、名古屋帯
* 97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野株式会社	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）
* 100	京商株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
* 101	株式会社猪井	後染反物
* 102	株式会社たちばな	後染反物
* 103	株式会社丸富美	後染反物 (色無地)
* 104	株式会社絹もの屋まつなが	後染反物 (色無地)
* 105	株式会社山正山崎	後染反物 (色無地)
* 106	有限会社こくぶん呉服店	後染反物 (色無地)
* 107	株式会社染織近藤	後染反物 (色無地)
* 108	株式会社宮川呉服店	後染反物 (色無地)
109	株式会社和らいふ	後染反物 (色無地)
110	有限会社きものいなもと	後染反物 (色無地)
111	株式会社世きね	後染反物
* 112	株式会社西陣まいづる	袋帯 (金銀糸 5% 以上)
113	奥順株式会社	先染反物 (結城紬)、帯 (結城紬)
* 114	りょうぜん天蚕の会	天蚕糸系ショール、天蚕ハイブリットショール
* 115	有限会社金屋	後染反物 (色無地)
116	株式会社鶴屋百貨店	胴裏絹
* 117	黄八丈めゆ工房	先染反物 (黄八丈)
* 118	京屋呉服店	後染反物 (色無地)
* 119	合資会社車屋呉服店	後染反物 (色無地)
120	宮崎株式会社	結城紬
* 121	有限会社内海呉服店きもの千歳屋	白生地
* 122	長島繊維株式会社	後染反物 (色無地)
123	株式会社しょう美	後染反物 (色無地)
124	(合) 治田呉服店	後染反物 (色無地)
* 125	株式会社丸十	後染反物 (小紋)
* 126	株式会社竹田嘉兵衛商店	胴裏絹
* 127	有限会社樋口屋京染店	白生地 (紋意匠)
* 128	大門屋	白生地 (着尺 (牛首紬))、帯地 (牛首紬)
129	株式会社加藤萬	帯揚、半衿
* 130	株式会社しゃらく	後染反物 (小紋)
* 131	合資会社山中商店	後染反物 (小紋)
* 132	きもの処 あだち	後染反物 (小紋)
* 133	西川産業株式会社	掛布団
* 134	繭工房 華美	寝衣 (長肌着、短肌着)
* 135	株式会社青山みとも	胴裏絹 (酵素精練)
* 136	株式会社和想	後染反物 (小紋)
* 137	株式会社高島屋呉服店	後染反物 (小紋)
* 138	富岡シルクブランド協議会	和装小物 (禪)、洋装品 (ネクタイ)
* 139	株式会社丸年呉服店	後染反物 (小紋)
* 140	株式会社染織館	後染反物 (小紋)
* 141	株式会社京ろまん	後染反物 (小紋)
* 142	五嶋株式会社	帯締
* 143	株式会社わふくや	長襦袢地
* 144	株式会社布屋呉服店	胴裏絹 (トルマリン加工)

(注) 表示者登録番号の前の\*印は、提携システムに移行している者又はそのグループが生産する製品を販売する者です。

# 蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
<b>蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設</b>			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
ゲンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 ゲンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
<b>展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設</b>			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
<b>その他関連施設</b>			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村 又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

## 【行 政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp/>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会  
(社) 日本絹業協会 (シヤパ<sup>®</sup>シルクセンター)  
(社) 日本生糸問屋協会  
(財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
T A F S (東京織物卸商業組合)  
K O M S (京都織物卸商業組合)  
京都和装産業振興財団  
(財) 伝統的工艺品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>  
<http://www.mawata.or.jp/>  
<http://www.tanko.or.jp/>  
<http://www.nishijin.or.jp/>  
<http://www.taafs.or.jp/>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www.kougei.or.jp/>

## 【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程  
<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学  
<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部  
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部  
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座  
[http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l\\_in\\_bunshi\\_seibuts.html](http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html)

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室  
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻  
[http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new\\_lab/index.html](http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html)

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース  
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科  
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所  
<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=50545](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545)

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=59241](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241)

京都府織物・機械金属振興センター  
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター  
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

## 【学 会】

日本シルク学会  
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

## 【博物館】

(財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	46
(2) 養蚕業の概要	47
(3) 養蚕農家数の推移	48
(4) 収繭量の推移	49
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量(2008年)	50
(6) 蚕品種別蚕種製造数量(2008年)	51
(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産量	52
(8) 平成22年度蚕期別、都府県農家戸数	53
(9) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	54
(10) 生糸の織度別生産数量の推移	55
(11) 国産生糸価格実態	56
(12) 絹需給の推移(生糸量換算試算)	58
(13) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)	59
(14) 製糸工場の原料繭需給	60
(15) 製糸工場の操業状況	61
(16) 生糸在庫数量の内訳	62
(17) 蚕糸関係品目別輸入状況	63
(18) 生糸原産国別輸入状況	64
(19) 絹糸原産国別輸入状況	65
(20) 絹織物生産状況	66
(21) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	67
(22) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	68

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	69
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	70
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	71
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	72
(5) 中国のシルク類(生糸、絹糸、絹織物)の輸出状況	73
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	74
(7) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	75

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Productio n	1戸当 収繭量 Cocoon Productio n per	生糸 生産量 Raw Silk Productio n	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台 数(保有 台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Productio n
年次 (暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
20年 2008	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
21年 2009	915	327	357	1.2	6	60	34.9	11,472
前年対比 (%)	89.6	85.6	95.5	75.0	100.0	75.0	91.6	81.7

資料 ・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。  
 ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査であり、平成21年以降の養蚕業は全国農業協同組合連合会調査である。  
 ・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。  
 (注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)  
 The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)  
 National Federation of Agricultural Co-operative Associations (Sericultural industry, after 2009)  
 The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
年次 Year	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

### (3) 養蚕農家数の推移

#### Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

(4) 収繭量の推移  
Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

## (5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量 (2008年)

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕農家数	桑使用面積	収繭量	養蚕農家数	収繭量	養蚕農家数	収繭量	養蚕農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)  
Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば ・ ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば ・ ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産量

(全農集計に(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位: kg、%) 平成23年1月14日現在

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年 対比	21年	22年	前年 対比	21年	22年	前年 対比	21年	22年	前年 対比
青森県	192.1	0.0	0.0%	153.1	137.4	89.7%	151.1	144.7	95.8%	496.3	282.1	56.8%
岩手県	2,526.0	2,017.6	79.9%	3,305.0	2,783.7	84.2%	3,694.6	3,049.7	82.5%	9,525.6	7,851.0	82.4%
宮城県	3,299.9	2,755.5	83.5%	2,692.3	2,335.9	86.8%	3,757.0	3,046.5	81.1%	9,749.2	8,137.9	83.5%
秋田県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
山形県	2,296.3	1,649.3	71.8%	1,128.3	761.7	67.5%	1,807.6	1,254.4	69.4%	5,232.2	3,665.4	70.1%
福島県	15,188.1	12,488.4	82.2%	14,670.8	11,946.4	81.4%	17,676.8	16,645.2	94.2%	47,535.7	41,080.0	86.4%
茨城県	4,814.0	3,672.0	76.3%	3,541.5	2,653.6	74.9%	4,242.9	3,181.4	75.0%	12,598.4	9,507.0	75.5%
栃木県	12,984.9	12,003.5	92.4%	6,901.5	4,465.3	64.7%	15,963.0	14,350.8	89.9%	35,849.4	30,819.6	86.0%
群馬県	55,127.7	49,138.1	89.1%	34,626.8	23,357.1	67.5%	49,254.0	38,871.7	78.9%	139,008.5	111,366.9	80.1%
埼玉県	9,778.9	9,018.9	92.2%	7,000.2	4,968.6	71.0%	8,475.9	6,903.5	81.4%	25,255.0	20,891.0	82.7%
千葉県	1,347.4	1,263.6	93.8%	976.8	671.7	68.8%	1,390.9	1,310.9	94.2%	3,715.1	3,246.2	87.4%
東京都	539.8	543.1	100.6%	0.0	0.0	—	440.0	342.3	77.8%	979.8	885.4	90.4%
神奈川県	863.9	884.8	102.4%	593.0	584.8	98.6%	735.4	637.9	86.7%	2,192.3	2,107.5	96.1%
山梨県	4,522.1	3,851.7	85.2%	1,824.1	1,170.0	64.1%	2,807.9	2,508.8	89.3%	9,154.1	7,530.5	82.3%
長野県	2,531.4	3,016.2	119.2%	3,116.3	2,212.9	71.0%	2,932.4	2,533.0	86.4%	8,580.1	7,762.1	90.5%
新潟県	0.0	0.0	—	102.3	46.6	—	44.7	51.9	116.1%	147.0	98.5	67.0%
岐阜県	1,978.6	1,351.3	68.3%	391.2	232.8	59.5%	1,170.6	687.4	58.7%	3,540.4	2,271.5	64.2%
静岡県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
愛知県	113.7	120.9	106.3%	0.0	0.0	—	34.9	0.0	—	148.6	120.9	81.4%
兵庫県	92.0	83.5	90.8%	83.6	80.0	95.7%	83.0	66.0	79.5%	258.6	229.5	88.7%
京都府	121.0	102.4	84.6%	74.1	97.5	131.6%	64.6	40.6	62.8%	259.7	240.5	92.6%
徳島県	1,674.6	0.0	0.0%	919.6	0.0	0.0%	1,148.6	0.0	0.0%	3,742.8	0.0	0.0%
愛媛県	2,340.2	2,172.3	92.8%	2,741.0	1,183.1	43.2%	1,937.2	1,671.9	86.3%	7,018.4	5,027.3	71.6%
高知県	344.5	280.4	81.4%	0.0	0.0	—	144.4	128.1	88.7%	488.9	408.5	83.6%
熊本県	817.3	543.4	66.5%	128.3	0.0	0.0%	237.5	271.6	114.4%	1,183.1	815.0	68.9%
宮崎県	165.6	136.6	—	0.0	0.0	—	131.8	62.7	—	297.4	199.3	67.0%
全国計	123,660.0	107,093.5	86.6%	84,969.8	59,689.1	70.2%	118,326.8	97,761.0	82.6%	326,956.6	264,543.6	80.9%

資料: 全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The dainippon Silk Foundation

## (8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

平成22年12月現在、全農調査（単位：戸、％）

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	21	15	71.4	23	23	100.0	28	23	82.1	33	27	81.8
秋田県	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
宮城県	30	21	70.0	23	17	73.9	33	21	63.6	37	28	75.7
山形県	11	10	90.9	10	9	90.0	11	9	81.8	12	11	91.7
福島県	83	71	85.5	72	65	90.3	82	76	92.7	95	83	87.4
茨城県	33	18	54.5	28	20	71.4	24	20	83.3	33	37	112.1
栃木県	43	37	86.0	32	25	78.1	40	38	95.0	47	40	85.1
群馬県	336	288	85.7	290	216	74.5	330	278	84.2	373	310	83.1
埼玉県	72	63	87.5	57	48	84.2	68	59	86.8	79	68	86.1
千葉県	12	10	83.3	9	7	77.8	9	8	88.9	12	11	91.7
東京都	6	6	100.0	0	0	-	7	5	71.4	7	7	100.0
神奈川県	9	9	100.0	10	10	100.0	10	10	100.0	12	12	100.0
新潟県	15	0	-	2	1	50.0	3	1	33.3	15	1	6.7
山梨県	31	24	77.4	14	7	50.0	22	21	95.5	31	27	87.1
長野県	32	28	87.5	26	19	73.1	27	25	92.6	39	31	79.5
岐阜県	25	18	72.0	9	8	88.9	18	17	94.4	27	21	77.8
静岡県	1	0	0.0	1	0	-	1	0	-	1	0	-
愛知県	2	1	50.0	1	0	-	0	0	-	3	1	33.3
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	0	1	-	1	1	100.0
島根県	1	0	-	0	0	-	1	0	-	1	0	0.0
徳島県	16	0	-	12	0	0.0	13	0	-	16	0	-
愛媛県	17	17	100.0	19	15	78.9	17	19	111.8	22	19	86.4
高知県	4	4	100.0	0	0	-	3	3	100.0	5	5	100.0
熊本県	10	8	80.0	4	2	50.0	6	4	66.7	10	8	80.0
宮崎県	2	4	200.0	3	0	-	1	2	200.0	3	4	133.3
全国計	814	654	80.3	647	494	76.4	755	641	84.9	915	753	82.3

資料：全国農業協同組合連合会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associ

## (9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,161	12,085	—	13,775	4,055	16,647	388	8,996	6,269
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2009 - 6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,117	4,211	1,525	31	603	448
10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
12	82	1,771	—	1,526	4,055	1,423	37	715	529
2010 - 1	71	1,061	—	1,239	3,948	1,683	21	781	444
2	78	722	—	930	3,818	1,435	4	563	485
3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
4	78	612	—	1,111	3,229	1,318	9	710	557
5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511
6	77	919	—	1,115	3,542	1,325	19	745	528
7	76	645	—	1,042	3,221	1,573	54	783	551
8	61	985	—	1,063	3,204	1,303	19	873	482
9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582
10	71	1,070	—	798	3,600	1,254	74	659	555
11	72	1,082	—	1,187	3,567	1,453	36	879	480

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 生糸の織度別生産数量の推移  
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
生糸年度 Silk Year						
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2009 - 10	93	0	24	26	24	18
11	86	0	12	25	25	24
12	73	0	20	26	11	16
2010 - 1	70	0	25	15	10	19
2	78	0	10	42	8	17
3	87	0	19	28	27	13
4	78	—	31	13	9	25
5	77	—	9	34	9	25
6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15
10	71	—	12	27	5	27
11	72	1	6	31	—	34

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (11) 国産生糸価格実態

### Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g  
(Unit : Yen/k g)

Size	21d	27d	31d	平均 Average
平成17年	3,870	3,173	3,107	3,383
平成18年	4,617	4,267	4,080	4,321
平成19年	3,961	3,625	3,573	3,720
平成20年	4,266	3,754	3,489	3,836
平成21年	4,171	3,598	3,136	3,635
平成22年	4,152	3,891	3,564	3,864
平成21年 7月	4,106	3,562	2,914	3,527
8月	4,186	3,841	2,912	3,646
9月	4,150	3,627	2,986	3,588
10月	4,149	3,450	3,195	3,598
11月	4,461	3,547	3,145	3,718
12月	3,980	3,581	3,055	3,539
平成22年 1月	3,900	3,876	3,643	3,806
2月	4,200	3,682	3,281	3,721
3月	4,000	3,758	3,327	3,695
4月	4,026	3,750	3,100	3,625
5月	4,144	3,876	3,314	3,778
6月	4,192	3,867	3,729	3,929
7月	4,000	3,883	3,600	3,828
8月	4,256	3,893	3,814	3,988
9月	4,209	3,965	3,625	3,933
10月	4,231	4,106	3,833	4,057
11月	4,338	4,149	3,942	4,143
12月	4,329	4,336	4,002	4,222

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks : Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source : Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)  
Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg  
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
12月中	12月	元	329.52	329.52	331.20	331.20
		円	4,284	4,284	4,306	4,306
	1月	元	331.50	331.50	334.44	334.44
		円	4,310	4,310	4,348	4,348
	3月	元	342.84	342.84	345.84	345.84
		円	4,457	4,457	4,496	4,496
	4月	元	330.96	330.96	333.90	333.90
		円	4,302	4,302	4,341	4,341
	5月	元	325.80	325.80	328.68	328.68
		円	4,235	4,235	4,273	4,273
	6月	元	323.76	323.76	326.58	326.58
		円	4,209	4,209	4,246	4,246
	7月	元	319.14	319.14	321.72	321.72
		円	4,149	4,149	4,182	4,182
	8月	元	322.80	322.80	326.10	326.10
		円	4,196	4,196	4,239	4,239
	9月	元	318.48	318.48	321.00	321.00
		円	4,140	4,140	4,173	4,173
	11月	元	317.76	317.76	319.86	319.86
		円	4,131	4,131	4,158	4,158

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
1月中	1月	元	342.38	342.38	343.28	343.28
		円	4,451	4,451	4,463	4,463
	3月	元	353.93	353.93	354.75	354.75
		円	4,601	4,601	4,612	4,612
	4月	元	342.08	342.08	343.20	343.20
		円	4,447	4,447	4,462	4,462
	5月	元	336.23	336.23	336.90	336.90
		円	4,371	4,371	4,380	4,380
	6月	元	333.60	333.60	333.98	333.98
		円	4,337	4,337	4,342	4,342
	7月	元	327.60	327.60	327.75	327.75
		円	4,259	4,259	4,261	4,261
	8月	元	326.40	326.40	326.63	326.63
		円	4,243	4,243	4,246	4,246
	9月	元	325.95	325.95	326.33	326.33
		円	4,237	4,237	4,242	4,242
	11月	元	323.55	323.55	323.70	323.70
		円	4,206	4,206	4,208	4,208
	1月	元	324.00	324.00	324.00	324.00
		円	4,212	4,212	4,212	4,212

円換算レートは、1元=13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

## (12) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位: 千俵)  
(Unit: 1,000 Bales of  
602)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
対前年比 2009/08 (%)	86	89	50	85	80	70	75	90	89	100	—	—	100	100	88	75

資料: 蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

## (13) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

## Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2004	2005	2006	2007	2008	2009	前年比%	構成比%
								y/y	ratio
布はく製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	72.0	1.4
	女子用外衣類 Women's upper garments	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	92.3	28.5
	うちブラウス Blouse of the inside	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	82.4	2.1
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	68.8	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	82.8	10.4
	ハンカチ Handkerchief	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	80.0	0.3
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	86.2	1.9
	ネクタイ類 Ties	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	87.5	14.0
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	80.3	12.2
	その他の洋装類 Other western clothes	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	92.8	16.9
洋装類計 Western clothes subtotal	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	87.6	86.4	
和装類計 Japanese clothes subtotal	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	108.2	12.2	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	114.9	10.7	
その他 Others	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	79.2	1.5	
合計 Total		167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	89.5	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"  
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

## (14) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2004	1,291	1,500	553
	2005	866	830	589
	2006	600	646	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	379
	2009	319	388	319
生糸年度 Silk Year				
	2004	1,056	1,280	224
	2005	839	673	390
	2006	562	599	349
	2007	502	583	266
	2008	406	452	224
	2009	324	337	209
Year	Month			
2009	— 4	△ 1	36	253
	5	△ 1	31	222
	6	21	33	209
	7	88	31	266
	8	56	30	292
	9	27	32	287
	10	9	31	265
	11	103	29	340
	12	5	26	319
2010	— 1	16	24	312
	2	△ 1	26	285
	3	△ 1	28	257
	4	1	23	235
	5	0	26	209
	6	54	30	233
	7	14	23	224
	8	70	19	275
	9	0	22	253
	10	80	24	309
	11	8	24	293

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：1.本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2.受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks：1.This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2.Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(15) 製糸工場の操業状況  
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2004	13	426	262	62	292	208
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2008 — 11	6	112	94	84	21	89
	12	6	112	90	80	22	90
	2009 — 1	6	112	91	81	20	85
	2	6	118	89	75	21	88
	3	6	118	90	76	22	89
	4	6	118	86	73	22	85
	5	6	118	77	65	20	80
	6	6	118	77	65	23	83
	7	6	118	72	61	23	83
	8	6	118	75	64	20	82
	9	6	118	77	65	22	82
	10	6	118	77	65	24	82
	11	6	118	74	63	21	81
	12	6	118	71	60	21	82
	2010 — 1	6	118	79	67	20	81
	2	6	118	77	65	21	80
	3	6	118	80	68	22	80
	4	7	118	79	67	20	90
	5	7	118	75	64	21	91
	6	7	118	74	63	22	84
	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(16) 生糸在庫数量の内訳  
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
生糸年度 Silk Year									
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2009 — 10	3,947	3,947	339	15	3,055	538			
11	3,728	3,728	359	10	2,926	433			
12	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
2	3,818	3,818	351	10	2,961	496			
3	3,650	3,650	342	0	2,863	445			
4	3,229	3,229	355	0	2,478	396			
5	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
6	3,542	3,542	343	0	2,644	555			
7	3,221	3,221	334	0	2,441	446			
8	3,204	3,204	340	0	2,365	499			
9	3,257	3,257	331	0	2,422	504			
10	3,600	3,600	328	0	2,646	626			
11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～).

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures,  
reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(17) 蚕糸関係品目別輸入状況 (平成17年~22年11月)  
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2005~Nov. 2010)

	単位 Unit	平成22年(2010)		平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	21年/20年 2009/08 (%)
		(11月) Sept	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉系計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	1,082	10,984	12,085	15,242	12,858	21,148	22,915	79.3
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,453	14,825	16,647	22,636	19,439	31,524	32,699	73.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	149	317	333	430	520	47.0
繭 Cocoon	kg	358	9,658	9,800	4,000	13,750	18,565	16,300	33.7
真綿 Floss	kg	—	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	—
ペニ Peigne	kg	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	1275.5
くず繭 Waste Cocoon	kg	256	9,498	33,450	23,770	17,184	1,020	3,650	140.7
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	—
その他の 絹くず Other Silk	kg	6,824	120,983	103,122	193,125	238,507	255,951	319,072	53.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	7,080	130,481	171,903	450,956	532,769	545,801	878,398	38.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	50,647	412,108	335,710	526,662	608,270	756,065	847,200	63.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	8,351	94,635	97,554	143,585	117,265	208,913	202,901	67.9
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	879,145	8,164,409	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	78.0

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(18) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
暦年 Calendar Year						
2007	12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-
2008	15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
2009	12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
生糸年度 Silk Year						
2007	16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-
2008	12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2009	12,845 (66)	8,787 (38)	3,986 (28)	-	73	-
2009 - 1	1,004	693	309	-	2	-
2	516	195	321	-	-	-
3	921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
4	529 (18)	333 (10)	181 (8)	11	5	-
5	1,379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
6	800	636	162	-	2	-
7	927	842	79	-	6	-
8	921 (10)	819 (10)	96	-	7	-
9	1,174	890	284	-	-	-
10	1,083 (15)	776 (2)	299 (13)	-	7	-
11	1,060 (16)	500 (16)	553	-	7	-
12	1,771	807	954	-	10	-
2010 - 1	1,061	857	205	-	-	-
2	722	490	229	-	3	-
3	1,182 (5)	639	512 (5)	-	31	-
4	612	449	163	-	-	-
5	1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	-	-	-
6	919 (4)	681	237 (4)	-	1	-
7	645 (5)	396 (5)	246	-	2	-
8	985 (15)	790 (15)	176	-	19	-
9	1,174	892	282	-	-	-
10	1,070 (16)	670 (10)	400 (6)	-	-	-
11	1,082	843	234	1	5	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。  
2. ( ) 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.  
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(19) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

国名 年月 Year&Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2007	19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
生糸年度 Silk Year								
2007	22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009	17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2009 — 1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
2	801	—	253	463	—	—	65	19
3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010 — 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
10	1,254	—	754	366	2	—	132	—
11	1,453	—	790	526	—	—	81	56

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

## (20) 絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)  
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010 — 1	834	271	105	88	78	443	288	155	119
2	939	305	118	99	88	499	325	175	134
3	965	314	122	101	91	512	334	179	138
4	997	324	126	105	94	529	345	185	143
5	981	319	124	103	92	521	339	182	140
6	1,103	358	139	116	104	586	382	205	158
7	1,014	330	128	106	95	538	351	189	145
8	901	293	114	95	85	479	312	168	129
9	962	313	121	101	90	511	333	179	138
10	995	323	125	104	93	528	344	185	142
11	1,004	326	127	105	94	533	347	187	144

資 料 : (社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk &amp; Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (21)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000m <sup>2</sup> )	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年 月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2010			515,721	102.5	80,701	109.5		
2008 —								
1	1,101	93.1	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,300	97.5	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,282	95.3	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,200	90.1	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,201	96.5	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,263	92.2	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 —								
1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12			45,018	104.1	5,616	92.7		

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

## (22) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

## Consumption Expenditures of Total Households

年月 Year & Month	項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
		(円) Yen	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)	(円) Yen	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)
暦年 Calendar Year													
	2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
	2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
	2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
	2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
	2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
	2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2009 -	1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
	2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
	3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
	4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
	5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
	6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
	7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
	8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
	9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
	10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
	11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
	12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 -	1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
	2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
	3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
	4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
	5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
	6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
	7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
	8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
	9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
	10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
	11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
	12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&amp;footwear includes japanese clothing , clothing , shirts&amp;sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2003年	2004年	2005年
		トン	トン	トン
日本	Japan	780	683	626
中国	China	480,774	547,091	621,461
インド	India	117,000	120,000	126,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,966	8,005	7,146
タイ	Thailand	10,500	10,650	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	3,200	2,543
トルコ	Turkey	169	169	170
ブルガリア	Bulgaria	0.3	20	42
ギリシャ	Greece	60	70	70
フィリピン	Philippines	23	22	14.4
シリア	Syria	15	11.5	5.5
主要国の計	Total	663,487	730,922	809,728

区 分		2006年	2007年	2008年
		トン	トン	トン
日本	Japan	505	433	382
中国	China	739,715	779,261	683,387
インド	India	135,000	150,000	133,316
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,051	8,617	6,266
タイ	Thailand	10,100	1,785	7,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	25,760
イラン	Iran	2,104	1,665	1,185
トルコ	Turkey	350	130	126
ブルガリア	Bulgaria	65	55	48
ギリシャ	Greece	100	104	0
フィリピン	Philippines	16	9	6
シリア	Syria	3	2.5	2.5
主要国の計	Total	937,009	983,062	879,179

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007年までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002 until 2007) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2003年		2004年		2005年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	287	4,800	263	4,400	151	2,500
中国	China	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700
インド	India	13,970	232,800	14,620	243,700	15,445	257,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,563	26,100	1,512	25,200	1,285	21,400
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,420	23,700	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	500	8,300	395	6,600
トルコ	Turkey	28	500	28	500	30	500
ブルガリア	Bulgaria	0	0	3	100	6	100
ギリシャ	Greece	4	100	4.5	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	1.1	0
シリア	Syria	2	0	1.5	0	0.7	0
主要国の計	Total	104,970	1,749,600	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800

区 分		2006年		2007年		2008年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	119	2,000	105	1,800	95	1,600
中国	China	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700
インド	India	16,525	275,400	18,320	305,300	18,370	306,200
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,387	23,100	1,220	20,300	1,177	19,600
タイ	Thailand	1,080	18,000	760	12,700	1,100	18,300
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,417	23,600
イラン	Iran	324	5,400	253	4,200	180	3,000
トルコ	Turkey	25	400	20	300	15	300
ブルガリア	Bulgaria	5	100	7.5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	0	0	0	0
フィリピン	Philippines	1.6	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.5	0	0	0	0.4	0
主要国の計	Total	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド織維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002 until 2007) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数  
Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

## (4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2009年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08 (%)	2009年実績	09/08 (%)
1 インド	India	6,569,701	78.43	169,347	85.25
2 韓国	South Korea	535,549	95.45	15,298	102.90
3 日本	Japan	452,022	68.23	13,085	68.07
4 ベトナム	Vietnam	375,651	59.74	10,753	65.15
5 イタリア	Italy	256,086	30.89	7,581	32.41
6 ルーマニア	Romania	255,816	22.80	7,174	23.79
7 パキスタン	Pakistan	177,598	71.93	4,587	79.16
8 バングラデッシュ	Bangladesh	151,813	78.57	3,798	84.36
9 シンガポール	Singapore	129,035	189.66	3,251	208.51
10 ミャンマー	Myanmar	65,661	118.00	1,594	122.07
11 その他	Others	258,273	37.59	7,053	39.69
合計	Total	9,227,205	68.70	243,521	72.97

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2010年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09 (%)	2010年実績	10/09 (%)
1 インド	India	5,316,040	80.92	210,292	124.18
2 ベトナム	Vietnam	687,800	183.10	27,625	256.92
3 韓国	South Korea	524,545	97.95	21,201	138.58
4 ルーマニア	Romania	508,559	198.80	20,229	281.97
5 日本	Japan	483,704	107.01	20,302	155.15
6 イタリア	Italy	347,761	135.80	14,853	195.92
7 バングラデッシュ	Bangladesh	166,676	109.79	6,230	164.02
8 パキスタン	Pakistan	85,423	48.10	3,128	68.19
9 ミャンマー	Myanmar	78,785	119.99	3,028	189.93
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	66,758	229.30	2,502	279.12
11 その他	Others	242,599	59.43	9,458	100.53
合計	Total	8,508,650	92.21	338,848	139.15

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08 (%)	2009年実績	09/08 (%)
1 インド	India	2,477,192	456.28	63,805	427.09
2 日本	Japan	596,647	95.02	18,318	91.10
3 パキスタン	Pakistan	464,458	111.39	13,203	112.44
4 イタリア	Italy	412,419	44.99	12,492	43.37
5 ドイツ	Germany	296,058	74.82	9,325	67.56
6 韓国	South Korea	202,018	463.33	5,923	398.83
7 タイ	Thailand	88,127	41.63	2,647	41.30
8 インドネシア	Indonesia	78,856	162.88	2,102	159.86
9 シンガポール	Singapore	69,474	287.05	1,617	256.15
10 ベトナム	Vietnam	56,380	1124.45	1,416	588.72
11 その他	Others	184,838	106.93	5,381	126.61
合計	Total	4,926,467	144.64	136,229	128.62

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09 (%)	2010年実績	10/09 (%)
1 インド	India	1,697,386	68.52	68,000	106.57
2 日本	Japan	632,473	106.00	26,847	146.56
3 イタリア	Italy	534,502	129.60	22,832	182.77
4 パキスタン	Pakistan	476,671	102.63	19,600	148.45
5 ドイツ	Germany	202,213	68.30	7,535	80.81
6 韓国	South Korea	189,531	93.82	7,847	132.48
7 タイ	Thailand	150,802	171.12	6,384	241.18
8 シリア	Syria	87,563	516.50	0,376	564.61
9 インドネシア	Indonesia	86,871	110.16	3,364	160.01
10 ベトナム	Vietnam	55,208	97.92	2,225	157.13
11 その他	Others	258,693	108.99	10,760	155.24
合計	Total	4,371,913	88.74	175,770	129.03

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08 (%)	2009年実績	09/08 (%)
1 インド	India	65,737,464	112.31	160,690	115.57
2 パキスタン	Pakistan	45,144,585	221.13	88,970	212.78
3 イタリア	Italy	36,326,731	80.82	105,440	73.08
4 香港	Hong Kong	17,155,562	61.78	75,032	61.09
5 韓国	South Korea	17,005,031	83.70	63,282	79.55
6 日本	Japan	11,401,420	83.87	29,884	79.73
7 シンガポール	Singapore	10,373,370	144.46	36,621	190.37
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,144,231	132.50	28,526	127.03
9 マレーシア	Malaysia	9,118,447	134.96	30,400	132.01
10 アメリカ	United States	5,460,308	65.40	30,024	62.19
11 その他	Others	35,259,585	101.90	116,842	92.90
合計	Total	262,126,734	105.13	765,711	95.27

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09 (%)	2010年実績	10/09 (%)
1 インド	India	56,715,405	86.28	194,688	121.16
2 パキスタン	Pakistan	52,802,642	116.96	133,167	149.68
3 イタリア	Italy	49,555,469	136.42	173,431	164.48
4 香港	Hong Kong	17,082,170	99.57	90,484	120.59
5 韓国	South Korea	15,521,720	91.28	70,217	110.96
6 日本	Japan	11,648,919	102.17	39,907	133.54
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	8,469,624	92.62	31,330	109.83
8 マレーシア	Malaysia	7,832,855	85.90	38,012	125.04
9 シンガポール	Singapore	7,482,141	72.13	30,155	82.34
10 アメリカ	United States	6,024,523	110.33	35,272	117.48
11 その他	Others	40,723,405	115.50	155,883	133.41
合計	Total	273,858,873	104.48	992,546	129.62

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移  
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11 〔見込み〕 〔Estimate〕	3,161 (71%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011 〔見込み〕 〔Estimate〕	557,000 (72%)	9,283

資料：ブラジル製糸協会

注：( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2011年2月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of February 2011.

## (7) ブラジル繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

## Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10	4,439	10	-	10	*1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10	770	10	*40,000	10	* 643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10	* 101	10	*110,000	10	* 3,000

資料:ブラジル製糸協会

注:印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: \*Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp/index.html>**

シルクレポート 2011年3月号 NO.17 平成23年3月1日発行

編集 / 発行  
(問い合わせ先)

**(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター**  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階  
TEL : 03-3214-3500  
FAX : 03-3214-3511  
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず